

Sen'i Gakkaishi
(Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan)

繊維学会誌

繊維学会創立80周年記念特集



2024 Vol.80 10

一般社団法人 繊維学会

衣料管理士の自己啓発のための勉強会・見学会を開催しています

衣料管理士の集い

TA (Textiles Advisor)

衣料管理士資格がなくても 参加できます

(定員に達した場合は衣料管理士が優先になります)

衣料管理士 (TA : Textiles Advisor) とは

日本衣料管理協会が認定している大学・短大で取得できる資格で、現在までに5万人以上が「衣料管理士(TA)」として認定されています。「衣料管理士の集い」は、TAとして自己啓発を行うための活動であり、関東・関西・中部の3支部による組織です。

勉強会

〔テーマ例〕

「ポリウレタン樹脂の基本・応用・耐久性～合成皮革に使用されるポリウレタン樹脂を中心に～」
「基礎シリーズ：染料と染色」 「骨格スタイルセミナー」 「化粧品の広告規制について」
「再生ポリエステルとこれからの服作り」 「知っておきたい食品表示・衛生管理の知識」 など

見学会

〔テーマ例〕

検品工場見学 / クリーニング工場見学 / 染色工場見学 / 羽毛加工工場見学 /
洗剤メーカー施設見学 / プリーツ加工工場見学 / ベビー服縫製工場見学 など



「衣料管理士の集い」の最新情報はこちらから

• HP <http://www.jasta1.or.jp/support/support-ta.html>

• Instagram @jasta_ta_tes



一般社団法人
日本衣料管理協会



〒105-0011 東京都港区芝公園 2-11-13-205 TEL : 03-3437-6416 FAX : 03-3437-3194
E-mail : jasta@mtb.biglobe.ne.jp URL : <http://www.jasta1.or.jp/>

森を育て、森を活かす。

木を植え、育み、緑あふれる森をつくる。

私たち王子グループが創業以来150年にわたって大切に育んできたもの——それは、“王子の森”です。

今では、日本および海外5カ国に、約58万ヘクタール^{*}の森を保有。地域の気候や自然環境に配慮しながら、すこやかな森づくりに取り組んでいます。

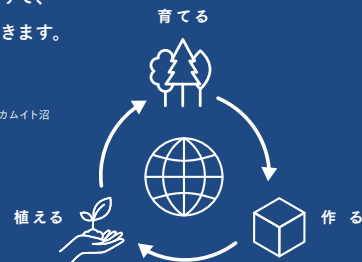
王子の森で育った木。それは、私たちのモノづくりの原料にもなります。木は、化石・鉱物資源とは異なり、使ってもまた植えることができる、再生可能な資源。資源の枯渇や環境汚染が叫ばれる今、プラスチックなどの代わりになることも期待されているのです。

森の力で、さまざまな環境問題に立ち向かい、美しくかけがえのない地球の未来をつくっていききたい。

私たちはすこやかな森づくりと森を活かした再生可能なモノづくりで、サステナブルな時代を動かしていきます。

※東京都の面積の約2.5倍

写真：王子ホールディングス（株） 北海道 猿払社有林・カムイト沼



領域をこえ 未来へ

OJI



王子ホールディングス株式会社 www.ojiholdings.co.jp

王子マテリア株式会社 王子コンテナー株式会社 森紙業グループ 王子ネピア株式会社 王子エフテックス株式会社
王子イメージングメディア株式会社 王子グリーンリソース株式会社 王子製紙株式会社



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

王子ホールディングス株式会社は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



繊維学会誌

2024年10月 第80巻 第10号 通巻 第943号

目次

時評	生成 AI 時代の繊維学会論文誌 JFST	武野 明義 P-309
<hr/>		
繊維学会創立80周年記念特集		
	世代をつなぎ超える繊維の科学技術	木村 良晴 P-310
<hr/>		
繊維学会創立80周年記念特集〈レビュー〉		
	繊維産業の20年後を展望する — 加速する AI 進化の中で —	平井 利博 P-312
	繊維の力学物性を決める構造	富澤 鍊・金 慶孝 P-317
	繊維集合体の構造形成と物性およびその応用技術	木村 裕和・坂口 明男 P-326
	紡糸工学	鞠谷 雄士・宝田 亘 P-344
	染料・染色・機能加工	廣垣 和正・堀 照夫 P-351
<hr/>		
解説	銀行券の偽造防止における紙の役割	齋藤 和春 P-363
<hr/>		
連載	〈繊維 街歩き(7)〉 結城市伝統工芸館訪問記	小寺 芳伸 P-369
<hr/>		



Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 80, No. 10 (October 2024)

Contents

Foreword Journal of Fiber Science and Technology in the Age of Generative AI
Akiyoshi TAKENO P-309

Special Issue for the 80th Anniversary of the Society of Fiber Science and Technology, Japan

Textile Science and Technology That Connects and Transcends Generations
Yoshiharu KIMURA P-310

Special Issue for the 80th Anniversary of the SFST, Japan <Review>

How Will the Textile Industry Look 20 Years from Now?
– In the Rapidly Evolving Era of AI Technology – Toshihiro HIRAI P-312

Structures Deciding the Mechanical Properties of Fibers
Ren TOMISAWA and Kyoung Hou KIM P-317

Structural Formation and Physical Properties of Fiber Assemblies and/or Its
Applied Technologies
Hirokadu KIMURA and Akio SAKAGUCHI P-326

Fiber Spinning Technology Takeshi KIKUTANI and Wataru TAKARADA P-344

Dyes, Dyeing, Functional Processing Kazumasa HIROGAKI and Teruo HORI P-351

Review

The Role of Paper on Banknote Security Kazuharu SAITO P-363

Series on Culture and Technology of Textile (7)

Report on Visit to the Yuki City Traditional Crafts Center Yoshinobu KOTERA P-369



Journal of Fiber Science and Technology (JFST)

Vol. 80, No. 10 (October 2024)

Transaction / 一般論文

❖ 繰り返し使用可能な炭素繊維を再生する新しいリサイクルプロセスに関する研究

永田 康久・山本 和弥・岡田 祐二 213

Basic Research on a New Recycling Process to Recycle Reusable Carbon Fiber

Yasuhisa Nagata, Kazuya Yamamoto, and Yuji Okada

繊維学会論文誌“Journal of Fiber Science and Technology (JFST)”

毎月の目次と抄録を繊維学会誌に掲載して参ります。本文はJ-Stageでご覧になれます。繊維学会のホームページ「学会誌・出版」から、また直接下記のアドレスにアクセスしてください。

英語：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst>

日本語：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst/-char/ja/>

JFSTはどなたでも閲覧は自由で認証の必要はありません。但し、著作権は繊維学会に帰属されます。

Journal of Fiber Science and Technology 編集委員

Journal of Fiber Science and Technology, Editorial Board

編集委員長
Editor in Chief

武野明義(岐阜大学)
Akiyoshi Takeno

編集副委員長
Vice-Editor

編集委員
Associate
Editors

青木隆史(京都工芸繊維大学大学院)
Takashi Aoki

鬘谷要(和洋女子大学大学院)
Kaname Katsuraya

上高原浩(京都大学大学院)
Hiroshi Kamitakahara

金呉屋(信州大学)
KyoungOk Kim

久保野敦史(静岡大学)
Atsushi Kubono

宮瑾(山形大学)
Gong Jin

齋藤継之(東京大学)
Tsuguyuki Saito

澤渡千枝(武庫川女子大学)
Chie Sawatari

朱春紅(信州大学)
Chunhong Zhu

登阪雅聡(京都大学)
Masatoshi Tosaka

花田美和子(神戸松蔭女子学院大学)
Miwako Hanada

久田研次(福井大学大学院)
Kenji Hisada

山本勝宏(名古屋工業大学)
Katsuhiko Yamamoto

Basic Research on a New Recycling Process to Recycle Reusable Carbon Fiber

Yasuhisa Nagata^{*1}, Kazuya Yamamoto^{*2}, and
Yuji Okada^{*3}

^{*1} Institute Professor, Department of Creative Engineering,
National Institute of Technology, Kitakyushu College

^{*2} Associate Professor, Department of Creative
Engineering, National Institute of Technology,
Kitakyushu College

^{*3} Group Leader, Emerging Technology Group, Advanced
Technology Development Dept., R&D Planning and
Business Development, Mobility & Industrial SBU,
ASAHI Kasei corporation

Carbon fiber (CF) is expected to improve the fuel efficiency of automobiles by reducing the weight of body, but a large amount of energy is required for manufacturing of original CF, so the reuse of CF is essentially important from an environmental impact perspective. Challenging the complete decomposition of CFRP for getting a reused CF has been researched by using oxidizing active species such as peroxide-sulfuric acid obtained from the electrolysis of concentrated sulfuric acid to obtain a high-performance reused CF.

In this study, concentrated sulfuric acid containing oxidizing active species produced by the electrolysis of sulfuric acid had the completely ability to be dissolved a matrix resin component of CFRP in a short period of time, and a getting reused CF showed an equivalent mechanical performance to that of original CF. This CFRP recycling processes by using electrolyzed sulfuric acid seemed to be the excellent method to get a high-performance reused CF. **J. Fiber Sci. Technol., 80(10), 213-220 (2024) doi 10.2115/fiberst.2024-0025 ©2024 The Society of Fiber Science and Technology, Japan**

会告 2024

The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 80, No. 10 (October 2024)

開催年月日	講演会・討論会等開催名(開催地)	掲載頁
2024. 10. 17(木) 18(金)	69th FRP CON-EX 2024(大阪市・大阪科学技術センター)	A22
11. 2(土) 3(日)	第 55 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 会告(令和 6 年度)(名古屋市・名古屋工業大学)	A9
11. 8(金)	第 39 回繊維学会西部支部講演会・見学会「環境と繊維・高分子」(福岡市・九州大学 伊都キャンパス ウエスト 5 号館および環境安全センター)	A8
11. 8(金)	第 296 回ゴム技術シンポジウム ゴム分析の基礎と最近の話題 - AI 活用、環境規制(東京都・東部ビル 5 階(ハイブリッド開催))	A22
11. 8(金)	第 20 回高分子表面研究討論会(神戸市・医療イノベーション推進センター(TRI))	A22
11. 12(火) 13(水)	第 64 回秋期ゴム技術講習会「ゴム超入門講座 IV ~ゴムってどんなもの?~」(開催形式:オンライン開催)	A22
11. 18(月)	繊維学会 第 207 回被服科学研究委員会一鎌倉シャツのサステナビリティ(東京都・日本女子大学 目白台校舎 新泉山館大会議室)	A10
11. 21(木)	第 63 回機能紙研究会(東京都・タワーホール船堀)	A22
11. 25(月) ~28(木)	繊維学会創立 80 周年記念事業 International Symposium on Fiber Science and Technology 2024 (ISF2024) 繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム 2024(京都市・京都テルサ)	A3
11. 28(木) 29(金)	2024 年 繊維学会秋季研究発表会・第 60 回染色化学討論会(京都市・京都テルサ)	A6
12. 6(金)	第 37 回東海支部若手繊維研究会(名古屋市・ウインクあいち(愛知県産業労働センター))	A11
12. 11(水) ~13(金)	2024 年度 JCOM 若手シンポジウム(兵庫県・淡路島観光ホテル)	A22
2025. 1. 10(金)	2024 年度 セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー(北九州市・九州工業大学)	A12
	繊維学会第 709・710 回理事会議事録、繊維系三学会合併に関する協議会(第 5 回)議事録	A13
	繊維学会誌広告掲載募集要領・広告掲載申込書	2010 年 6 月号
	繊維学会定款(2012 年 4 月 1 日改訂)	2012 年 3 月号
	Individual Membership Application Form	2012 年 12 月号
	繊維学会誌報文投稿規定(2012 年 1 月 1 日改訂)	2014 年 1 月号
	訂正・変更届用紙	2014 年 3 月号

「繊維学会誌」編集委員

編集委員長	内田 哲也(岡山大)			
編集副委員長	鬘谷 要(和洋女子大院)	出口 潤子(旭化成(株))		
編集委員	大島 直久((一社)日本染色協会)	奥家 智裕(帝人(株))	鹿野 秀和(東レ(株))	上高原 浩(京大)
	金 慶孝(信州大)	榊原 圭太(産総研)	澤田 和也(大阪成蹊短期大)	朱 春紅(信州大)
	杉浦 和明(京都市産業技術研究所)	高崎 緑(横浜国立大院)	谷中 輝之(東洋紡(株))	長嶋 直子(金城学院大)
	中野 恵之(兵庫県立工技センター)	西田 幸次(京都大院)	檜垣 勇次(大分大)	廣垣 和正(福井大)
	松野 寿生(山形大)			
顧問	浦川 宏(京都工芸繊維大院)	土田 亮(岐阜大学名誉)	村瀬 浩貴(共立女子大)	小寺 芳伸(元 三菱ケミカル(株))

2024年度（令和6年度）繊維学会行事予定

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所
繊維学会 創立 80 周年記念事業 International Symposium on Fiber Science and Technology 2024 (ISF2024)	2024年11月25日(月) Welcome Party 2024年11月26日(火)–28日(木) Symposium 2024年11月28日(木) Banquet	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
2024年 繊維学会秋季研究発表会	2024年11月28日(木)–29日(金) ※11/28(木) ISF2024と秋季研究発表会 合同ポスター発表 ※11/29(金) 秋季研究発表会 口頭発表	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ

繊維学会の正会員様へのお知らせ

繊維学会正会員様の会員資格は毎年自動継続となり、別段のお手続きは必要ございません。
異動、退職、卒業などによりご登録情報に変更がございましたら、お早めにご連絡を頂きますよう、ご協力を
よろしくお願い申し上げます。

* 学会誌の送付先の変更

住所変更(新旧の住所)、担当者変更(新旧の担当者名)、時期など

* 退会をご希望の際は、メールまたはFAXに必要な事項

会員番号、氏名、退会希望日、連絡先などを記入し、下記までご連絡をお願いします。

問合せ先 一般社団法人繊維学会 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208

TEL : 03-3441-5627 FAX : 03-3441-3260 E-mail : office@fiber.or.jp

繊維学会論文誌 (JFST)

Journal of Fiber Science and Technology

- JFST は、繊維科学を中心とした幅広い専門分野をカバーする査読付きの英文・和文のハイブリッドジャーナルです。
- JFST は、Web of Science Core Collectionをはじめ Journal Citation Report, Scopus等の各種データベースに収録され、永く Impact Factor を維持し、国際的な評価を得ている日本の繊維科学をリードする学術論文誌です。
- JFST は、読者へのサーキュレーションの良いオープンアクセス誌としていますが、掲載内容の二次利用については、著作権保護の立場から一般社団法人 著作権協会に著作権管理および利用許諾業務を委託しています。

複写等をご希望される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、公益法人
日本複製権センターと包括複写許諾契約を締結されて
いる企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使
の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

(一社)学術著作権協会

TEL : 03-3475-5618 FAX : 03-3475-5619

E-mail : info@jaacc.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直
接本会へご連絡ください。

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡し
てください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone : 1-978-750-8400 FAX : 1-978-646-8600

繊維学会創立 80 周年記念事業
International Symposium on Fiber Science and Technology
2024 (ISF2024)
繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム 2024

一般社団法人 繊維学会では、創立 80 周年記念事業として、繊維の科学と技術に関わる研究者・専門家を世界中から幅広く集めて、国際会議を開催します。繊維科学・技術分野において、繊維やテキスタイルそのものの基礎・応用研究のみならず、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、AI/ICT テクノロジーや人文社会科学との境界領域も益々重要となってきています。繊維の科学と技術に関する研究開発が急速に発展している中、本国際会議は、当該分野に係る世界中の人々が集い、最新の研究成果を発表し、情報の交換を行う場を提供します。特に、日本の中で繊維産業の規模は縮小傾向にあるとはいえ、当該分野の日本の高い技術力、研究開発力は世界が認めるところであり、本国際会議は世界から大きな注目を集めるものと期待されます。現在の日本の立ち位置を確認し、また、世界に向けて日本の実力を発信するため意義深いものと考えます。加えて、歴史観光や学術文化で世界からも注目の集まる京都の地で開催することは、特に海外からの参加者にとって魅力あるものに違いありません。本国際会議を契機として、産官学界で「総合知」の観点も取り入れながら、繊維をキーワードとしてグローバル課題解決を目指す議論や協働が活性化することを期待します。

会 期：2024 年 11 月 25 日～11 月 29 日

会期は秋季研究発表会(以下「秋研」という。)を含む

※ 11 月 28 日は、秋季研究発表会との合同ポスター発表会

※ 11 月 29 日は、秋季研究発表会の口頭発表

会 場：京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町 70)

主 催：一般社団法人 繊維学会

協 力：(協賛)日本化学繊維協会

(協賛)日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会

組 織：組織委員長 辻井敬亘(繊維学会会長)

実行委員長 櫻井伸一(京都工芸繊維大学)

秋季研究発表会実行委員長 上高原 浩(京都大学)

スケジュール

11 月 25 日(月) ウェルカムパーティー

11 月 26 日(火) オープニングセレモニー、基調講演、招待講演、一般発表

11 月 27 日(水) 招待講演、特別セッション、一般発表

11 月 28 日(木) 午前 特別セッション @テルサホール

午後 秋研合同ポスター発表 @東館 2F & 3F

夕方 クロージングセレモニー、日本舞踊、秋研合同バンケット @テルサホール

11 月 29 日(金) 秋研日本語口頭発表

一般セッション

G1. Fibers and Polymer Materials(including Membranes)

Polymer Synthesis, Creation, Structure/Properties, Functions, and High-performance

- G2. Soft Matter
Liquid Crystals, Colloids, Gels, Elastomers, Blends, and Block Copolymers
- G3. Biomedical Materials
Biomolecules, Biomaterials, and Medical Polymers
- G4. Molding, Processing, and Spinning
Fibers/Films, Nonwoven Fabrics, Porous Materials, and Composites
- G5. Dyeing and Finishing (including Coating and Laminating)
Dye, Dyeing, Functional Processing, and Cleaning
- G6. Textiles and Apparel
Fashion, Comfort Science, Simulation, Modelling, Textile Testing, and Clothing Psychology
- G7. Textile Machinery
Fiber Assembly, Fabrication, and Commercialization
- G8. Industrial Textiles and Smart Textiles
Technical Textiles and Nonwoven Fabric
- G9. Management, Marketing, and Education
Textile Economy, Ecology, Supply Chain, Apparel Industry, DX, Education, and Training

特別セッション

- S1. Tradition and Culture of Fibers and Textiles (招待講演のみ)
- S2. Sustainable and Environmentally-Benign Fiber Science and Technology
Natural Fibers, Bio-based Polymers, Environment, Sustainability, Circular Economy, and SDGs
- S3. International Collaboration (招待講演のみ)
Future Vision of Fiber Science

※詳細については公式ホームページ <https://www.primatours.co.jp/isf2024/> をご覧ください。

Participant Type	Payment for ISF2024	Payment for Autumn Meeting	Audible Presentations
Presentations only at ISF2024	Need	No need	ISF2024 (all), Autumn Meeting (all)
Presentations only at Autumn Meeting	No need	Need	Autumn Meeting (all), ISF2024 (only Nov 28)
Presentations at both ISF2024 & Autumn Meeting	Need	Need	ISF2024 (all), Autumn Meeting (all)
Attendance only at ISF2024	Need	No need	ISF2024 (all), Autumn Meeting (all)
Attendance only at Autumn Meeting	No need	Need	Autumn Meeting (all), ISF2024 (only Nov 28)
Attendance at both ISF2024 & Autumn Meeting	Need	No need	ISF2024 (all), Autumn Meeting (all)

使用言語：英語

問合せ先：ご不明の点は、ISF2024 事務局へお問い合わせください。

ISF2024 事務局

E-mail：isf2024@fiber.or.jp

担当：丸林 弘典 (ISF2024 副実行委員長、京都工芸繊維大学)、山本 恵美 (繊維学会事務局)

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208

一般社団法人 繊維学会内

ISF2024 Program (simplified version)

Venue: KYOTO TERRSA
Updated date: Sep. 24

Date	Time	1F, East Restaurant "Rim"
Nov. 25	15:00	Registration
Mon	17:00	Welcome Party
Day 0	19:00	Session End

Special Sessions

S1. Tradition and Culture of Fibers and Textiles
S2. Sustainable and Environmentally-Design Fiber Science and Technology
S3. International Collaboration

General Sessions

G1. Fibers and Polymer Materials	G5. Dyeing and Finishing
G2. Soft Matter	G6. Textiles and Apparel
G3. Biomedical Materials	G7. Textile Machinery
G4. Molding, Processing, and Spinning	G8. Industrial Textiles and Smart Textiles
	G9. Management, Marketing, and Education

Date	Time	1F, West	2F, West	2F, East			3F, East		
		Room A (Terra Hall)	Terra Hall 2F Lobby	Room B (Seminar Room 1+2)	Room C (Seminar Room 3)	Room D (Medium Conference Room)	Room E (AV Study Room)	Room F (Conference Room A+B)	Room G (Conference Room C)
Nov. 26 Tue Day 1	8:30	Registration at Hall Entrance							
	9:30	Opening							
	9:50	Break							
	9:55	Plenary Lecture							
	12:10	Break							
	13:30	S2		G1	G1	G3	G7, 8, 9	G2	G6
	15:30	Break							
	15:50	S2		G1	G1	G3	G7, 8, 9	G2	G6
	18:10	Session End							

Date	Time	1F, West	2F, West	2F, East			3F, East					
		Room A (Terra Hall)	Terra Hall 2F Lobby	Room B (Seminar Room 1+2)	Room C (Seminar Room 3)	Room D (Medium Conference Room)	Room E (AV Study Room)	Room F (Conference Room A+B)	Room G (Conference Room C)	Room H (Conference Room D)		
Nov. 27 Wed Day 2	8:30	Registration at Hall Entrance										
	9:00	S2	Corporate Booth	G1	Corporate Booth	G3	G7, 8, 9	G2	Corporate Booth	G4		
	12:00	Break										
	13:20	S2		G1		G5	G7, 8, 9	G2		G4		
	15:20	Break										
	15:40	S2		G1		G5	Session End	G2		Session End		
18:00	Session End											

Date	Time	1F, West	2F, West	2F, East			3F, East																
		Room A (Terra Hall)	Terra Hall 2F Lobby	Room B (Seminar Room 1+2)	Room C (Seminar Room 3)	Room D (Medium Conference Room)	Room E (AV Study Room)	Room F (Conference Room A+B)	Room G (Conference Room C)	Room H (Conference Room D)													
Nov. 28 Thu Day 3	8:30	Registration at Hall Entrance																					
	9:00	S3	Corporate Booth	Preparation	Corporate Booth	Preparation	Preparation	Corporate Booth	Preparation														
	12:00	Break																					
	13:20	Plenary Lecture																					
	14:05	S1								Corporate Booth	Display	Corporate Booth	Display	Display	Corporate Booth	Display							
	15:15	Break																					
	15:25	Special Event "Japanese Dance"																					
	16:00	Break																					
	16:10																Poster 1 ODD		Poster 1 ODD		Poster 1 ODD		Poster 1 ODD
	17:10																Poster 2 EVEN		Poster 2 EVEN		Poster 2 EVEN		Poster 2 EVEN
	18:10	Session End																					
	18:25	Closing																					
18:40	Banquet																						
20:40	Session End																						

To poster presenters: please display your poster during the "Preparation (Poster Preparation Time)".

Room H : Poster session (in Japanese) room for the Autumn Meeting

2024年 繊維学会秋季研究発表会

主催：一般社団法人 繊維学会

開催期間：2024年11月28日(木)～29日(金)

会場：京都テルサ(〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70)

交通：・JR 京都駅(八条口西口)より南へ徒歩約15分

・近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分

・地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分

・市バス九条車庫南へすぐ

研究発表：1. 繊維・高分子材料の創製

(1a 新素材合成、1b 素材変換・化学修飾、1c 無機素材・有機無機複合素材)

2. 繊維・高分子材料の機能

(2a オプティクス・フォトンクス、2b エレクトロニクス、2c イオニクス、2d 機能膜の基礎と応用、2e 接着・界面／表面機能、2f 耐熱性・難燃性)

3. 繊維・高分子材料の物理

(3a 結晶・非晶・高次構造、3b 繊維・フィルムの構造と物性複合材料の構造と物性、3c 繊維構造解析手法の新展開、3d その他)

4. 成形・加工・紡糸

(4a 繊維・フィルム、4b 不織布・多孔体、4c 複合材料、4d 3D プリンタ)

5. テキスタイルサイエンス

(5a 紡織・テキスタイル、5b 消費科学、5c 感性計測・評価テキスタイルサイエンス)

6. 天然繊維・生体高分子

(6a 紙・パルプ、6b 天然材料、6c 生分解性材料、6d バイオマス素材)

7. ソフトマテリアル

(7a 液晶、7b コロイド・ラテックス、7c ゲル・エラストマー、7d ブレンド・マイクロ相分離)

8. バイオ・メディカルマテリアル

9. 【若手産官学交流セッション】依頼講演のみ

10. 【繊維基礎科学研究委員会特別セッション】依頼講演のみ

11. 【高校生セッション】

* 口頭発表には液晶プロジェクターが準備されていますが、パソコンは発表者ご自身で持参してください。

* 依頼講演(発表30分、質疑応答9分、交代1分)

予稿原稿受付：2024年10月8日(火)～10月31日(木)17時

注) * 予稿原稿を投稿された時点で、その著作権は繊維学会に帰属するものとします。

* 予稿原稿は締切以降投稿できなくなりますので、ご注意ください。

予稿集発行日：2024年11月21日(木)

第60回染色化学討論会：主催：(一社)繊維学会 染色研究委員会

日時、会場、懇親会は「秋季研究発表会」と同一です。

参加登録方法：「秋季研究発表会」ページよりお申し込みください。

* ポスター発表は染色化学討論会と秋季研究発表会の合同で行います。

・染色化学討論会に参加ご希望の方は、繊維学会秋季研究発表会へご登録ください。

詳細は染色化学討論会のホームページをご覧ください。

参加登録費：

	正会員及び、維持・賛助会員	学生会員	非会員（一般）	非会員（学生）
事前登録	11,000 円	4,000 円	20,900 円	7,700 円
登録期間以降または当日登録	13,000 円	6,000 円	23,100 円	9,900 円

正会員・学生会員(不課税)、一般非会員・学生非会員(消費税込)

*事前参加登録及び、参加登録費をお支払いいただきました方へは、会期一週間前を目途にメールにて「参加証」をお送りします。

参加者タイプ	ISF2024 の 参加費支払い	秋季研究発表会の 参加費支払い	聴講可能な発表
ISF2024 のみ発表	必要	不要	ISF2024 全発表、秋研全発表
秋研のみ発表	不要	必要	秋研全発表、 ISF2024 の 11 月 28 日発表のみ
両方で発表	必要	必要	ISF2024 全発表、秋研全発表
ISF2024 の聴講のみ	必要	不要	ISF2024 全発表、秋研全発表
秋研の聴講のみ	不要	必要	秋研全発表、 ISF2024 の 11 月 28 日発表のみ
両方の聴講	必要	不要	ISF2024 全発表、秋研全発表

*学生非会員の方へ：小島盛男様からのご寄付を貴重な財源として“令和 10 年プロジェクト”を推進しています。プロジェクトの一環として、若手会員増強プログラムを掲げ、学生会員の年会費を補助(無料に)いたします。この機会に繊維学会へご入会ください。

参加登録：2024 年 7 月 16 日(火)～2024 年 11 月 14 日(木)

懇親会：詳細が決まり次第、追ってご案内いたします。

支払方法：1. 銀行振込：三菱 UFJ 銀行 目黒駅前支店 普通口座 4287837

(口座名)一般社団法人繊維学会

2. 郵便振替：口座番号 00160-9-756624

(加入者名)一般社団法人繊維学会秋季研究発表会

(注)*参加登録費には web 予稿集閲覧権が含まれます。

*予稿集の冊子体配布はいたしません。ご了承ください。

*研究発表会へ参加される方は、必ず事前参加登録をお願いいたします。

*ポスターセッションは ISF2024 と合同で開催いたします。

*参加に関するご質問は学会事務局までメールでお問い合わせください。

繊維学会事務局：office@fiber.or.jp

*その他、不測の事態が生じた場合は、WEB 上で告知することをご承知おきください。

*開催期間は観光シーズンのため、参加におけるホテルのご予約等は各自お早めにご準備ください。

2024 年 繊維学会秋季研究発表会実行委員会

実行委員長：上高原 浩(京都大学)

副実行委員長：丸林 弘典(京都工芸繊維大学)

実行委員：(順不同)：青木 隆史(京都工芸繊維大学)、上坂 貴宏(京都市産業技術研究所)、小川 紘樹(京都大学)、川中 直樹(日本エクスラン工業株式会社)、木梨 憲司(京都工芸繊維大学)、谷口 育雄(京都工芸繊維大学)、解野 誠司(椋山女学園大学)、西田 裕志(ユニチカ株式会社)、沼田 圭司(京都大学)、松原 孝典(産業技術短期大学)、櫻井 伸一(京都工芸繊維大学)、原 光生(香川大学)、石毛 亮平(東京工業大学)、伊福 伸介(京都大学)、大野 工司(大阪公立大学)、杉村 和紀(京都大学)、竹下 宏樹(滋賀県立大学)、中野 恵之(兵庫県立工業技術センター)、博田 浩明(日清紡テキスタイル株式会社)、橋本 朋子(信州大学)、山崎 慎一(岡山大学)、吉岩 俊也(旭化成株式会社)

第 39 回繊維学会西部支部講演会・見学会 「環境と繊維・高分子」

日 時：2024 年(令和 6 年)11 月 8 日(金)13:00～17:00

場 所：九州大学 伊都キャンパス ウエスト 5 号館 229 講義室および環境安全センター

参加費：無料(懇親会は会費 6000 円を予定)

申込締切：2024 年 10 月 25 日(金)

プログラム：

【講演会】

13:00 開会の挨拶

繊維学会西部支部長(大分大学) 氏家 誠司

13:05～14:25 物理劣化・物理再生理論が実現する
革新的プラスチックサーキュラーエコノミー

(福岡大学研究推進部 機能構造マテリアル研究所) 八尾 滋

14:25～14:35 休憩

14:35～15:25 九州大学伊都地区における水の管理

(九州大学環境安全センター) 高田 晃彦

15:25 開会の挨拶

【見学会】

15:30～16:00 九州大学農学研究院学術資料開示室

16:15～16:45 九州大学環境安全センター

【懇親会】

18:30～20:30 中洲周辺

連絡先および参加申込方法：

繊維学会西部支部庶務(九州大学 大学院工学研究院)盛満 裕真

E-mail：y-morimitsu@cstf.kyushu-u.ac.jp、Phone：092-802-2880

2024 年 10 月 25 日(金)までに、以下のアドレスまたは QR コードから Google Form にアクセスし、お申し込みください。

<https://forms.gle/bzezq7XJ9v4VhiPLA>

Google Form での申込できない場合、氏名、所属、連絡先(メールアドレス)、講演会・見学会・懇親会参加の有無を盛満までご連絡ください。



第 55 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 会告(令和 6 年度)

主 催：中部化学関係学協会支部連合協議会

共 催：日本化学会東海支部、東海化学工業会、高分子学会東海支部、日本分析化学会中部支部、日本セラミックス協会東海支部、表面技術協会中部支部、有機合成化学協会東海支部、日本原子力学会中部支部、日本油化学会東海支部、日本接着学会中部支部、色材協会中部支部、電気化学会東海支部、化学工学会東海支部、日本ゴム協会東海支部、触媒学会西日本支部、日本薬学会東海支部、石油学会東海支部、日本繊維機械学会東海支部、日本防錆技術協会中部支部、日本農芸化学会中部支部、名古屋工業大学(予定を含む)

協 賛：公益財団法人中部科学技術センター、繊維学会東海支部

後 援：分子科学研究所

会 期：令和 6 年 11 月 2 日(土)、3 日(日)

会 場：名古屋工業大学(名古屋市昭和区御器所町)

討論主題[一般研究発表の講演分野]1)有機化学(有機合成化学、理論化学、薬学、農芸化学を含む)、2)物理化学・無機化学(錯体、材料、触媒を含む)、3)電気化学(表面技術を含む)、4)分析化学(環境化学を含む)、5)高分子化学(繊維、ゴム、接着を含む)、6)環境とエネルギー(水素、CCUS、バイオマス利用技術、原子力を含む)、7)生体関連化学、8)色材、9)油化学、10)化学工学、11)その他

[特別討論会の主題]1)持続可能な有機化学の探求、2)カーボンニュートラルに貢献する電気化学、3)分析化学の応用・展開、4)環境にも優しいソフトマテリアル研究の最前線、5)接着・粘着、ゴム・エラストマー、繊維における研究開発の動向、6)界面活性剤と油のあやなす未来技術、7)階層性が生み出す色材、8)次世代ハイブリッド表面技術によるカーボンニュートラル社会へ貢献、9)オプトバイオテクノロジー研究の最先端

発表形式：詳細は大会 WEB サイトをご参照ください

発表申込方法：詳細は大会 WEB サイトをご参照ください

予稿原稿：原稿作成送付要領は大会 WEB サイトをご参照ください

参加登録費：一般：予約 8,000 円、締切以降 9,000 円、学生：4,000 円、締切以降 5,000 円

懇親会：11 月 2 日(土) 18 時より、浩養園 会費：一般 6,000 円、学生 4,500 円(要予約)

参加登録予約申込方法：詳細は大会 WEB サイトをご参照ください

問合先：〒466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 古谷 祐詞

E-mail: chukaren55@lab-ml.web.nitech.ac.jp

大会 WEB サイト：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/chukaren55>

繊維学会 第207回被服科学研究委員会開催のお知らせ —鎌倉シャツのサステナビリティ—

被服科学研究委員会 委員長 松梨久仁子

第207回被服科学研究会は、メーカーズシャツ鎌倉株式会社取締役の佐野貴宏氏をお招きして、『鎌倉シャツのサステナビリティ』 https://shop.shirt.co.jp/shop/pages/sustainability.aspx?sl_top をテーマに講演会を開催いたします。

メーカーズシャツ鎌倉は1993年、鎌倉の地で「世界で活躍するビジネスパーソンをシャツで応援する」という理念のもと創業しました。既存のビジネスモデルを覆し、SPAの先駆けとして、高品質のメイドインジャパンのシャツを納得価格で販売するというビジネスモデルは現在まで受け継がれています。セールをしないという販売スタイルは、服が売れない、あるいは大量廃棄が問題となっている現在のアパレル業界で注目されています。また、SDGsに連なる取り組みや日本のモノづくりを守るという企業理念も、時代に求められているものです。

下記は、国内で綿を栽培し、紡績し、縫製するという取り組みについての動画です。

https://www.youtube.com/watch?v=xws4RV7yz_A&list=PL1J9vE0-N62iFpbzd-6kJ3gJXg26YNxf1&index=2

鎌倉シャツ HP



動画



参加費は無料です。会員以外の方もどうぞ積極的にご参加ください。貴重なこの機会に、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2024年11月18日(月)16:30~18:00

会場：日本女子大学 目白台校舎 新泉山館大会議室

共催：日本女子大学家政学部被服学科

協賛：日本繊維製品消費科学会 サステナブルファッション研究委員会

参加費：無料

交流会：講演会終了後、参加者の交流会(18:30~20:30)を予定しています。

[会場]大学近隣 [会費]5,000円(予定)

申込：講演会に参加ご希望の方は2024年11月11日(月)までに下記のGoogle Formsのリンクからお申し込みください。<https://forms.gle/wUWTiA3yUc2cD4Gb7>

連絡先：鎌倉女子大学 谷祥子

tani@kamakura-u.ac.jp



第 37 回東海支部若手繊維研究会 発表募集

共催：(一社)繊維学会東海支部、(一社)日本繊維機械学会東海支部、
(一社)日本繊維製品消費科学会東海支部、愛知県(予定)

日時：2024 年 12 月 6 日(金)

会場(予定)：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)
(愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38、JR「名古屋駅」から徒歩約 5 分)

内容：一般研究発表

研究発表申込：発表題目、発表者名(共同研究の場合は発表者に○印)、所属、連絡者名、連絡先(電話番号、E-mail アドレス)をご記入の上、下記申込先に E-mail にてお申込みください。折り返し、要旨の書き方等をお知らせいたします。

研究発表申込締切：2024 年 10 月 11 日(金)(予定)

要旨原稿提出締切：2024 年 11 月 15 日(金)(予定)

参加申込：2024 年 11 月 29 日(金)までに、①氏名、②所属(学生は学年も)、③連絡先(電話番号、E-mail アドレス)、
④情報交換会参加有無をご記入の上、下記申込先に E-mail にてお申込みください。

参加費：共催学会の会員、発表者、学生は無料(要事前申込)、一般は 1,000 円

情報交換会：名古屋駅周辺(17:30-19:00 予定)

申込先：日本繊維機械学会 東海支部 E-mail：tokai@tmsj.or.jp

2024 年度 セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー

日時：2025 年 1 月 10 日(金) 13:00 より

場所：九州工業大学(北九州市戸畑区仙水町 1 番 1 号)

(アクセス：<https://www.kyutech.ac.jp/information/map/tobata.html#02>)

主催：セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部

共催：九州工業大学

形式：対面

参加費：無料(懇親会は有料)

申込締切：2024 年 11 月 29 日(金)

プログラム：

13:00～13:10 開会の挨拶

13:10～13:55 京都大学大学院農学研究科・准教授 寺本 好邦 氏

「バイオベース材料複合系の様々な形態における機能と評価」

13:55～14:40 大阪大学産業科学研究所・准教授 古賀 大尚 氏

「生物ナノ繊維材料の機能設計とエレクトロニクス・医療応用展開」

14:40～15:00 休憩

15:00～15:45 愛媛大学紙産業イノベーションセンター・特定研究員 湯岡 陽 氏

「脱炭素社会の実現に向けたパルププラスチック複合材の開発」

15:45～16:30 A & C たかくら株式会社 代表取締役 高倉 剛 氏

「ピッチ系炭素繊維開発と工業化」

16:30～16:40 閉会の挨拶

18:00～(予定) 懇親会(会場は、申込頂いた方にメールでご連絡いたします)

連絡先および参加申込方法

九州工業大学大学院工学研究院 物質工学研究系応用化学部門 毛利 恵美子

〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町 1-1

E-mail：mouri.emiko786@mail.kyutech.jp Phone：093-884-3317

2024 年 11 月 29 日(金)までに、以下のアドレスまたは QR コードから Google Form にアクセスし、お申し込みください。

<https://forms.gle/vvXu74mnWZoNshrp9>

Google Form での申し込みができない場合には、電子メールにより氏名、所属、連絡先(メールアドレス、電話番号)、懇親会参加の有無をご連絡ください。



2024年5月18日
13:00~16:00

繊維学会 第709回 理事会議事録

1. 議事事項

出席理事 大田康雄、辻井敬巨、奥林里子、村瀬浩貴、松葉豪、中澤靖元、武野明義、末信一朗、櫻井伸一、吉村利夫、麓谷要、花田朋美、竹中幹人、木村睦、神山祐光、竹本慎一、清水宏泰、森下美由紀、吉松丈博、濱田仁美、増田正人、逸見龍哉、
欠席理事 内田哲也、道信剛志、齋藤維之、大松沢明宏、山崎睦生、香出健司、佐瀬正和、
出口潤子
監事 金谷利治、土田亮、小原奈津子 (順不同、敬称略)
会場 オンライン開催

大田会長の司会で、理事30名のうち、出席理事22名、監事3名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款36条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、オンライン開催(執行部のみ対面)にて行い、理事の意思表明は発言や挙手にて決議した。続けて、大田会長が議長となり議事に入った。

2. 審議事項

- 1) 会員入退会の件・・・<資料1>
5月15日(水)現在の会員数について別紙の通り報告された。正会員数998名(正会員919名、名誉会員15名、永年会員56名)、学生会員329名、維持会員11団体(増減なし)、賛助会員89団体。学生会員数の大幅な増加は、本年度年次大会での発表申込み、ならびに、ISF2024への発表申込みによるものであることが説明された。昨年度末に1,000名以下となった正会員についても、新年度に入り新規入会申込みが増えたことも報告された。また、引き続き、理事へ今後の会員増強に関する協力が求められた。資料1に基づき、入退会についての承認を求めた。
【審議結果】
入退会報告について、異議なく承認された。
2) 2023年度事業報告承認について・・・<資料2>
2023年度事業報告について、資料2に基づき説上げを行い、内容等について再度確認を行った。その上で、総会資料として提出してよいか承認を求めた。
【審議結果】
繊維基礎科学研究委員会活動について活動内容の一部追記、また、医用材料研究委員会名の誤字修正を前提に、総会に付議することが異議なく承認された。
3) 2023年度決算報告承認について・・・<資料3>
財務担当村瀬副会長より、資料3に基づき、本年度の収支決算について説明がなされた。2023年度貸借対照表に基づき、【流動資産】29,620,802円(こちらは、昨年とほぼ変動なし)、【固定資産】基本資産1,000,000円、特定資産60,751,921円、その他固定資産1,030,979円、固定資産合計62,782,900円となり、資産合計92,403,702円である。

【流動負債】7,578,281円(会費前受金と職員預り金)、【固定負債】10,987,441円(退職給付引当債務)、【一般正味財産】81,416,261円となり、昨年度に比べ、△5,549,768減となった。

2023年度財産目録

・固定資産の特定資産積立について、顧問税理士より通帳の統合について指摘を受けたことが伝えられ、それを受けて、4月27日(土)に開催された監査委員会において、順次、口座の統合を進めることについて承認されたことが報告された。

2023年度正味財産増減計算書

・正会員、維持・賛助会員様の退会を受け、本年度の受取会費が△1,902,134円減
・事業収益 学会行事収益の講演会行事収益が、前年比△4,702,000円と大きく減収となっているのは、2022年にATC-16国際会議を開催したことに伴うものである。
・同じく、事業費・外注費についても前年比△1,838,780円は、ATC-16開催にともなう運営業者への支払いによるものである。
・正味財産期末残高は、前年比△5,549,768円となっているが、基金からの取崩しが、予め決められている部分が含まれることが説明された。内容として、小島基金積立から学生会員費700,000円、リカレント教育支援制度1,500,000円、学会費772,476円、職員退職金積立880,800円が該当する。不測の事態として、学会事務局のガス漏れに伴う工事費用571,064円を含む。所定の支出が4,424,340円となった。
・その他、支部・研究委員会への本部支援金

・実質、事業収支としてのマイナスは1,125,428円となること、今回のマイナス収支の要因としては、会費収入の減収と対面行事の再開などに関わる様々な支出増、物価の高騰なども背景にあることが説明された。取崩の表現がネガティブに聞こえるが、元々目的を持って貯めてきた基金から、正しい使途へ使われていることへの理解も求められた。
・現状、繊維学会の資産はまだ潤沢であると言える一方で、毎年約500万円の取崩が続くと、10年後には基金や財産も枯渇することから、今後一層努力して収支プラスに転じることができるよう行事運営など考えていきたいことも伝えられた。

【審議結果】

2023年度決算報告について総会に付議することが異議なく承認された。

4) 本年度予算見直しについて・・・<資料4>

3月の理事会にて承認いただいた予算案について、決算資料に基づき修正を行った。資料4に基づき説明され、本年度の事業計画に即ち、修正した予算案にて学会を運営していくことについて提議された。

【審議結果】

2024年度予算案について異議なく承認された。

5) 新理事承認について・・・<資料5>

次期会長候補者である辻井副会長より、資料5に基づき新理事候補者選考の経緯と、新理事候補者案承認について提議された。

【審議結果】

新理事候補者案の30名について、異議なく承認された。なお、新理事会発足は、6月14日(金)開催予定の総会において正式承認となるが、登記手続きの関係から本承認をうけ、会長名での委嘱状発行、就任承諾書等書類の郵送を行うことが併せて承認された。

- 6) 小島基金リカレント教育支援制度の内容変更について・・・<資料6>
奥林副会長より、小島基金リカレント教育支援制度の内容変更について説明がなされた。変更箇所として、奨学金40万円を支給(1人1回限り)、JFSTへの拠出を3年間無料とすること、選考方法、被支援者の義務が提議された。

【審議結果】

上記修正箇所変更について異議なく承認された。併せて、修正された案に沿って、本年度の募集を開始することも承認された。5月20日(月)以降にも、学会誌及びホームページにおいて本年度の募集を開始することとした。

- 7) 名誉会員推薦の件について・・・<資料7>
名誉会員規定に該当する会員について資料7に基づき説明がなされた。本年度総会への名誉会員推薦については、鞠谷雄士氏と浦川宏氏を推薦することについて提議された。

【審議結果】

上記提議について、総会に付議することが異議なく承認された。

3. 報告事項

- 1) 80周年記念事業の進捗について・・・<資料8>
・5/13時点のご報告
【発表申込について】
・発表申込者は240名(発表予定者も含めると259名)(目標300件の80%(86%))
・発表申込件数が概ね増加傾向ではあるが、セッション間人数がアンバランス(会場費用を考慮、合同セッションでの開催を予定)
・海外からの申込みはまだまだ少ない状況
Plenary & Invitedも含めて全体で 日本:海外=90:10
・海外の参加者増強のため、開催時期に近いITMC, ATC担当者組織・実行委員会を調整中(韓国から20~30名、台湾から10~20名程度を見込む)
【スポンサー(展示・広告)について】
・Goldスポンサー 8件申込(一財)ポークン品質評価機構、東洋紡(株)、日清紡キヤスタイル(株)、日本製紙(株)、(株)ミマキエンジニアリング、富士紡ホールディングス(株)、セトラスホールディングス(株)、大日精工工業(株)
・一般スポンサー2件申込(マイクロ・イライップメント(株)、京大・京都工機大)
・その他、理事企業様含む複数より申込の予定連絡あり
【申込延長について】
・アカウント登録・発表申込の締め切りを、5/13から5/31まで延長
国内外問わず、近隣・お知合いへの積極的な勧誘へのご協力を依頼
- 2) 繊維系三学会会長・副会長懇談会(第4回)開催について・・・<資料9>
・大田会長より第4回懇談会についての懇談会の議事録と共に報告がなされた。

・合併の検討を再開することが正式に現理事会で承認されたことを受け、従前から不定期開催で情報交換のため開催してきた「繊維系三学会会長・副会長懇談会」は、2024年2月の「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第3回)」より、3学会合併協議を再開することを決定した。

・3月31日(日)に開催した「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第4回)」が、合併に関する協議会としては、第2回となることを明確にするため、今回、資料9のタイトルとして「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第4回)及び三学会合併に関する協議会(仮称:注) (第2回)議事録」としている。協議会では、合併に関する進め方を相談させていただくことを主目的としている。

(注:本理事会の翌日に開催された三学会合併に関する協議会(仮称)(第3回)にて、正式名として「繊維系三学会合併に関する協議会」と決定されましたので、追認となりますが、以下の議事録には正式名を記載させていただきます。)

・前回理事会で、「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第3回)」議事録を共有し、ワーキング委員(WG)をいかに選定するかを報告した。今回、合併検討再開にあたり、過去に会員から出された様々な課題に対して、各WGの中で、重点的に議論していただくことをフレームワークとしている。

・全く白紙から議論すべきとの意見もなかったわけではないが、長期間かけて行われた議論が無駄にならないよう、継承できるものはそのまま継承しようとのことから、前回WGでの議論や答申の内容をたたき台とする形で進めることとした。ただ、答申が出されてから2年以上経過していることから、必要な部分は過去の答申を見直しWGには現状の課題に合わせて、新たに検討と提案を組み入れていただくように進めていただくことにした。

・資料には、各WGメンバーが示されている。前回と名称が一部変更になったWGとして、将来構想検討WG(注)、全体のビジョン、ミッション、合併後に何を指すかなどを検討、提案がある。

・4月、5月の間で、新WGにおいて第1回目(キックオフ)会合が開催されたことと報告を受けている。初回は、過去のWGでの議論の振り返り、現在の課題抽出、想定されている期限(中間報告6月末、中間答申8月末、最終答申10月)の確認をしていた。

・5月19日(日)「三学会合併に関する協議会(仮称)(第3回)」にて各WGからの報告がある予定であり、全体の目線合わせをして、合併に関する現状と課題が整理できることとなる。

・6月、8月の両方か、どちらか、また最終答申が出た際に、会員の皆様との公聴会の様な意見交換を持つ場を設ける事を予定。会員の皆様へ現状の説明を行い、「ぜひ色々なご意見やご議論を交わす場としたい。特に、財務検討WG、事務局検討WGの事務局問題など焦点であった重要な課題も多くあるので、できるだけ課題を明確にして、「先送りにしない」、ある程度のロードマップを作成して会員の皆様へお話し、提案させていただきたいと考えている。

・上記のようなフレームワークで議論を進めさせていただくことが決定したことを、まずは理事の皆様にご報告し、今後議論が本格化していく中で、中間報告、答申につ

いても逐次、議事録を共有させていただく。また、会員の皆様へも同様に議事録をHPで公開し、意見を集めていきたいと考えている。

- ・報告事項ではあるが、本日お認めいただければ、「三学会合併に関する協議会（仮称）（第2回）」の「(仮称)」を外して、会員の皆様へ議事録を公開させていただきたいと考える。また、WGや検討開始に関する経緯を会長メッセージとし、議事録と合わせて公開させていただくことが提議された。
- 議事録公開について異議なく承認された。

【質問、その他】

年次大会検討WG委員の中澤理事より質問

- ・検討WGでの具体的な問題抽出や議論を開始した段階であるが、年次大会の開催時期やセッション名、セッション数などを検討する段階で、「各学会で議論して」との指示あり困惑している。このような場合、WGの委員間で議論するより、もう少し上位の組織学会検討組織があるのではないかと考える。
- ・WGでの議題に対して、学会として意見を求められた時の対応の仕方。委員に一任されるものなのか、関連する催事検討WG委員と相談して進めるべきなのか、または、執行部と相談すべきなのか迷うところである。

- ・仮に4月に新学会が発足した場合、6月に合同での年次大会開催は困難ではないか。場所や会場数の問題など、委員だけでは決められない課題が多い。また、時期をずらすことは、他学会の行事との重複や、組織学会の秋研や夏季セミナーにも影響が及ぶこともあり、WGだけの議論は困難を極める。

(回答) 最終的には、其々のWGから提案いただいたことを、各学会で検討したうえで決定することになるので、まずは、委員からの意見として、WGで回答いただいで構わない。また、WGを超えて影響が大きいものや、早めに決めないといけないことについては、組織系三学会合併に関する協議会、もしくは事務局検討WGに提案いただき、全体として優先順位を上げて議論していく。

国際化検討WG委員の木村理事より質問

- ・WGは、組織系三学会会長・副会長懇談会の下で組織かどうか。
- ・各学会の現状を把握することがWGの目的と考え、国際化検討WGの初回を開催したが、年次大会検討WGからの状況聞く限り、もっと先、合併した後のことを議論、検討している。WGの目的は何か。

(大田会長回答) 各WGは組織系三学会合併に関する協議会の下で組織です。また、合併を目的として、合併後のありべき姿を設計するのがWGの目的であると考えている。

- ・協議会が仮称である以上、正式な組織として立ち上がっていない段階で、合併を前提としたような先の議論をするべきでないのではないか。まだ、合併するか否かは決まっておらず、投票によって決まるものである。投票することになった場合に、会員

へ与えられる情報を纏めていくのがWGの姿かと思っていた。答申の意味がわからない。WGは合併することを見せるための方法なのか？

(大田会長回答) 三学会合併に関する協議会（仮称）は、名前だけが仮称で組織はできており、5月19日（日）の協議会で仮称を取ることを承認いただくこととしている。

- ・協議会を正式に立ち上げるかどうかは会長・副会長間で決められるものなのか？組織系懇談会において、正式に会員へ議決を取るなどのプロセスは不要なのか？

(大田会長回答) 理事会で承認された三学会合併に関する協議会を三学会で再開（協議）するために、三学会で何らかの会議体を設置するのは自明であり、総会での承認は不要と考える。

- ・国際化検討WGでは、3学会の現状とどういふビジョンを持っているか、その中で近いところどこなのか考えるのが役目と考えていた。合併した後の姿を描くのがWGの意味合いなのか？今の時点でそのような姿を描けるのか？

(大田会長回答) 合併した後の姿を描くのがWGである。合併した後の姿を描けるものと描けないものがあるが、まずは課題を明確にしてほしいという事が各WGへの依頼となる。

- ・WGによっては、非常に具体的なものも、ビジョン的なものが入り混じっている。現時点では、合併をするかどうか判断いただくためのメリットを、まず会員の皆様に理解していただくことが本来のWGのミッションではないか？答申とは、WGからの提言をどこかで会員に開示して、会員懇話会を開催するつもりでの指示か？各WGが並走していて、ロードマップもないままだと、どういふ質の提案をWGに要求されているかわからない。

(大田会長回答) WGによっては非常に具体的な議論が必要となることや、ビジョン的なものにとどまるところがあていと思う。

(村瀬財務副会長回答) 会員の皆様に合併するかどうか判断いただくためにも、具体的な部分を決めないといけないので、それについてはWGで決めていただきたい。

- ・WGからは統合後の姿を見せるだけであって、決めるのは合併が決まってからではないか。「WGで決める」と言うと、投票行為と相違してしまうのではないかと。あくまで、WGでの提案、決定事項ではないと理解している。

(大田会長回答) 前回のWGでの決定事項が、会員の皆様に十分に示されていないことは反省事項。合併後にどうなるか、過去のWGでの詳細な議論の内容が伝わらないまま、合併の投票となってしまう印象を会員各位に与えたのではない。一部の理事からは「先送り体質」との批判を受けたことは事実である。WGでは、合併したらどんな形になるか、どんなメリット・デメリットがあるかを議論いただき、今回は会員の皆さんへもWGの議論の中身も公開していきたいと考える。

- ・今回投票を行う前には、相当精緻なものでその後が全てデザインされてスキームが整っているものを会員へ示す考えか。1年でそこまで行きつかないのではないかと？

(大田会長回答) 会員各位がメリット・デメリットを判断できる課題の整理と、できればそれに向けての対応策の提示も、検討が可能な範囲で組織系三学会合併に関する協議会で議論したい。課題の提示が重要であって、完璧で精緻であることを求めているものではない。

- ・WGでの議論を進めるためにも、何をどこまでやらなくていいかの、目標値を示して、設定していただきたい。(すでに、年次大会検討WGではかなり細かい答えを出しているが) 前回の反省を踏まえて、「前回はここまでしか示さなかったからダメだった」という意見であれば、それをどこまで具体的に示すかを検討する論点を出していただきたい。目標が不明確のまま、細かい論点からは議論ができない。

(大田会長回答) 細かい論点はWGにお願いしている。まず、合併に対してどういふ課題があるかをあげていただくことが先と考える。

- ・WGで何か議論して欲しいというようにしか見えない。何をやってくれというオファーがない限り、議論が進まない。特に、前回の失敗があったにも関わらず、白紙からの検討でないのであれば、尚更明確に示していただく必要がある。

(奥林運営委員長回答) 目標値、論点を検討して、回答させていただく。

- ・大前提として、「もし合併したらどうなります」を空想の上での議論として進めて良いか。また、提案は何パターンかあってどれがいいか何うことであって、答申としてどれか一つしか提案しないのであればそれは決定していることを意味する。可能性のあるものをいくつか提示するのがWGの役割であると理解しており、何かを決定し、どうすべきかを提言する必要はないと考えている。最終答申は、どれか一つのような出し方ではなく、あくまで複数の提案であるべきである。

(奥林運営委員長回答) 決めるというのは、「WGからの提案内容を決める」であり、提案を認めるかどうかは会員の皆様による投票であると理解している。また、答申についても複数の提案であるべきについて了解した。

年次大会検討WG委員の中澤理事より質問

- ・年次大会検討WGでは、前回答申を決定事項としており、今後どうブラッシュアップしていくかの方向性ですでに話し合いが進んでいる。前回答申はかなり具体的に、WGの範囲をこえてしまうように思う。

(大田会長回答)

WGの性格によって異なる。合併の時にクリティカルである部分（年次大会、学会誌など）が含まれるWGもあればビジョン（あるいはメリット・デメリット）を提供するに留まるWGもあると思われゴールは其々で異なっても構わない。トップダウンで目標値を設定して「ここまで決めてください」という事も一つの考え方であるが、全体の目標・基本的な考え方は示しながらも、ボトムアップ、WGメンバーや会員の皆様からのご意見を纏めながら進めていく事も重要ではないかと考える。

今後の進捗についても、引き続き理事会で随時報告を行うとともに、会員へも随時情報公開することが伝えられた。

3) 企画委員会 基礎講座の準備状況について・・・<資料10>

「2024年 組織学会基礎講座」
2024年7月18日（木）、19日（金）オンライン開催
5月15日（水）時点での参加申込み 4名

4) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部（支部長 松葉理事）

- ・令和6年度化学系協会東北大会
2024年9月14日（土）、15日（日）、秋田大学手形キャンパス開催
発表申込締切 7月19日（金）

- ・北海道紙バブル懇談会 共催予定

- ・2024年第一回支部講演会

- ・2024年7月25日（木）、山形大学米沢キャンパス

- 「ナノテラスの利用に向けた、放射光を利用したX線構造解析」

- ・今年度は、1～2回対面での講演会開催予定

② 関東支部（支部長 中澤理事）

- ・2024年組織学会年次大会（創立80周年記念）

- ・2024年6月12日（水）～14日（金）、タワーホール船堀開催

- 事前申込締切 5月31日（金）

- 企業展示12社、広告9社

- 5月15日（水）時点での参加申込み 300名

- ・関東支部委員の交代を予定、現在調整中

③ 東海支部（支部長 武野理事）

- ・東海支部長 名古屋工業大学 永田謙二先生へ交代。

④ 北陸支部（支部長 未理事）

- ・令和6年度組織学会北陸支部学術普及講演会「災害に備える繊維技術」報告

- 2024年4月18日（木）開催 参加者 71名

- ・北陸支部役員会

- 2024年4月18日（木）開催

- ・支部役員交代の件について

- 庶務 高村映一 先生（福井大学大学院）

- 会計 鈴木悠 先生（福井大学大学院）

⑤ 関西支部（支部長 櫻井理事）

- ・組織学会関西支部会議&記念講演会報告、見学会実施予定

- ・関西繊維科学賞、奨励賞も公募し実施予定

- ・関西支部長 京都大学 上高原浩 先生へ交代

- ・ISF2024に加えて、秋季研究発表会への参加協力依頼

⑥ 西部支部（支部長 吉村理事）

- ・第61回化学関連支部合同九州大会

- 共催：高分子学会九州支部ほか7化学関連支部

- 会場：北九州国際会議場

- 会期：2024年6月29日(土)
 ・西部支部長 大分大学 氏家誠司先生へ交代。
 ・2025年夏季セミナーについては、氏家先生を中心に準備開始とのこと。
- ⑦ 研究委員会関係について
 ・堅ろう度標準化研究委員会役員会
 2024年5月14日(火) オンライン開催
- ⑧ ATC-17開催について
 ・Asian Textile Conference 17(ATC-17)への参加について依頼した。
 会場：Feng Chia University, 台湾・台中
 会期：December 17-19, 2024
 発表募集詳細 G1.Fibers and Polymer Materials, G2. Textile Processing and Properties, G3. Chemical Treatments (Including Dyeing and Finishing), G4.Technical Textiles, G5. Smart Textile and Materials, G6.Green Materials and Technology, G7.Fashion and Clothing Science, G8.Managing and Marketing
- 5) 各委員会からの報告等について
 ① 運営委員会
 ・小島基金リカレント教育支援制度内容変更が承認されたことを受け、本年度の募集を開始することが伝えられた。
 ・論文賞の賞金を50,000円+JFST論文投稿クーポン30,000円(使用期限3年間)へ変更することが運営委員会にて承認されたことが報告された。2024年度6月の受賞分より、賞金に変更となることが伝えられた。
- ② 将来構想委員会
 ・委員会が開催されていないため、今回は特筆すべき事項なし。
- ③ 国際連携委員会
 木村理事より、
 ・2023年10月より国際連携委員会を中心に、我が国が繊維学会を中心として、どんな学術の世界に対して連携を持ちかけるかの議論を進めてきたこと
 ・その中で、科研費への申請を目標とし、3月と5月に、繊維学会を中心に活躍されている高分子物性の先生方と研究会を実施するなど半年間活動してきたこと、科研費申請に向けたディスカッションも実施してきたが、論点が纏めきれなかったことなどから、今年6月の申請は見送り、来年の申請にむけて準備を進めていくこと
 ・今年下期にはシンポジウムや研究会を立ち上げて皆と議論を深め、よりブラッシュアップしていく予定であること、国際連携の日本から発信できるものを作ることを目指して活動していること
 ・合併の国際検討WGでは若手育成や留学生など論点があるが、国際連携委員会では、まず学術の発信を中心に活動を進めていることなどが報告された。
- 6) 支部長・研究委員長会議について
 ・4月24日(水)にオンライン開催したことが奥林運営委員長より報告された。
 会議では、支部長と研究委員会委員長より、2023年度の活動報告に加え、2024年度の活動予定についても報告された。

- ・本年度の本部支援金については、例年通り、繰越金が100万円未満の3支部と12研究委員会とすることも承認されたことが報告された。
- 7) 編集委員会の報告
 ① 繊維学会誌
 ・順調に発行準備が進んでいること、寄稿に関する協力の御礼が伝えられた。
 ② 論文誌 JFST
 樋口編集委員長より
 ・順調に発行準備が進んでいることに関する謝意、
 ・編集委員長は武野理事に交代となること、
 ・小島基金から投稿料半額補助を利用して、ATC-16 同様に ISF2024 特集号についても準備を進めていくことが伝えられた。
- 8) その他案件
 ① 小島基金リカレント教育支援制度 本年度募集について・・・資料11>
 ・審議事項と併せて報告がなされたため、追加の説明は省略された。
 ② 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・資料12>
 資料12と共に、学会誌広告掲載について大田会長、事務局から協力を依頼。
 ③ 今後の理事会日程について
 6月14日(金) 臨時理事会 15時～(新旧理事)対面開催(タワーホール船堀)
 7月27日(土) 対面開催(関西)
 9月7日(土) オンライン開催
 11月16日(土) オンライン開催
 2025年1月18日(土) 対面開催(東京)
 2025年3月22日(土) オンライン開催
 【監査委員会】
 2025年4月26日(土) 監査委員会 対面開催(東京)
- ④ 今後の学会行事担当について
 *2027年6月年次大会 別会場手配について検討する必要あり
- | | 2024年 | 2025年 | 2026年 | 2027年 | 2028年 |
|---------|-------|----------|-------|-------|----------|
| 年次大会 | 関東支部 | 関東支部 | 関東支部 | 関東支部 | 関東支部 |
| 夏季セミナー | 中止 | 西部支部 | 北陸支部 | 東海支部 | 東北・北海道支部 |
| 秋季研究発表会 | 関西支部 | 東北・北海道支部 | 関西支部 | 関西支部 | 関西支部 |
- ⑤ 交代理事挨拶
 ・本理事会をもって交代される理事各位より挨拶をいただいた。

4. 監事コメント
 【金谷監事】
 コロナ禍以降、学会行事が対面開催に戻ってきたことによる活発な活動がとても印象的であった。また、実行委員、理事で協力し創立80周年記念シンポジウム(ISF2024)の準備

を進められていること、大変喜ばしく思っている。3学会合併に関する議論については、協議会(仮名)で、重要な課題について議論が進められていることを議事録から読み取ることができた。特に、将来ビジョンや方向性を明確にするために、事務局問題や財政問題、国際問題を含む様々な重要課題をWGで適切に進められていると感じましたし、執行部が皆さんの意見をしっかり聞く姿勢は評価できる。ただ、本日の議論にもあったが、課題によっては現時点ではどこまで将来ビジョンを議論できるかは、扱う課題によってもかなり異なる部分があると感じた。合併については、会員の総意で投票により決まるので、現時点では何も言うことはできないが、今後もより細かく進めていかれることを期待している。最後に、1年間の変動的な執行部ではあったが、大田会長に感謝すると共に、次期会長、新理事会の運営に期待を寄せるとともに、交代される理事、新理事には今後も引き続き繊維学会を支えていただければと思います。

【土田監事】

長時間に渡り活発なご議論をいただきましてありがとうございました。まず、理事の皆様には、ISF2024に積極的に参加登録いただき、関係者への勧誘にも引き続き協力をいただきますようお願いいたします。次に、合併会議について本日も報告がありましたが、前回の合併失敗の理由は様々ありますが、今回はできるだけ会員の皆様への情報開示を頻繁に行なっていくべきだと思います。また、WGで協力いただいている先生方も、情報を自分だけに留めることなく、執行部や関係者と共有し議論を進めていただくことが大切かと思えます。皆様には、将来の日本の繊維技術や繊維科学、ひいては世界の繊維技術、繊維科学の発展に関わる重要な課題を検討していることを常に頭に置いて作業していただきたいと思えます。

【小原監事】

大田会長はじめ、今回退任される理事の皆様には、難しい課題が山積している時期に大変な力を尽くしていただいたと思います。本日、合併協議会の議事録がHPに公開されることについて報告がありましたが、それは大変良いことだと思います。その際に、ぜひ協議会の目的やプロセス、今後のスケジュール案等に加え、各WGの役割などの説明を加えてから会員の皆様と共有いただくと、より理解していただきやすいのではないかと思います。宜しく願います。また、WGの議題として合併後の行事などを検討するだけでも、なかなか難しい問題かと思えます。例えば、年次大会などでは移行期間などを設けるなど、柔軟な運営の可能性などを含め、議論されてはいいのではないかと感じました。

第709回理事会 議事録署名人名 捺印

議長: _____印

監事: _____印

監事: _____印

監事: _____印

2024年7月27日
13:00~16:00

繊維学会 第710回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事 辻井敬巨、濱田仁美、村瀬浩貴、増田正人、松家豪、中澤靖元、永田謙二、上高原浩、氏家誠司、内田哲也、武野明義、花田明美、木村睦、巽大輔、神山祐光、出口潤子、増森忠雄
欠席理事 末信一朗、道信剛志、大松沢明宏、山崎雅生、小泉聡、清水宏泰、森下美由紀、東城武彦、石澤仁志、香出健司、高崎緑、竹中幹人、櫻井伸一
監事 大田康雄、土田亮、小原奈津子 (順不同、敬称略)
会場 対面開催 (キャンパスプラザ京都 (京都市下京区東塩小路町 939))

辻井会長の司会により、理事30名のうち出席理事17名、監事3名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款36条により本理事会は有効に成立したことが報告された。なお、本理事会は、対面に開催し、理事の意思表明は発言や挙手にて決議することが伝えられた。続けて、新理事会発足にあたり辻井会長より挨拶があった。「繊維学会は今年創立80周年を迎え、振り返ると学会としては黎明期、創設期、発展期と続き、今は成熟期に位置づけられるのではないかと、学術分野も産業界も、更には学会としても安定的な運営ができる状況にあると考える一方で、流れに任せて運営してきた部分もあるのではないかと。そうした運営の中で、三学会合併問題など、様々な事が顕在化してきているのがここ数年である。三学会合併問題、その他にも様々な課題はあるが、今後を考えるよい契機と考え、本理事会が一体感を持って、しっかりと運営に努めていかなければならないと考える。ぜひ、忌憚のない、積極的な意見交換を通じて、一体的な運営ができるよう、協力のほどよろしくお願ひ致します。会長としての期では、透明性を持って繊維学会の将来構想についての議論、三学会合併問題、事務局の基盤整備の3本柱に取り組みたいと考えている。何れも独立的ではなく相互に進めていくべきことであるので、三学会の合併に関係なく、これらを議論しておくことで、繊維学会の将来を見据えた活動につながることを考える。理事の皆様とら喧々沏々、今後の学会運営について議論して進めたいと思います。」挨拶に続き、辻井会長の議長となり議事に入った。

2. 審議事項

1) 会員入退会について・・・<資料1>

7月24日(水)現在の会員数の詳細(正会員数1003名(正会員931名、名誉会員17名、永年会員55名)、学生会員360名、維持会員11団体(増減なし)、賛助会員88団体)学生会員数の大幅な増加は、ISF2024ならびに、秋季研究発表会への参加・発表申込みのところが大きい。昨年度末に1,000名以下となった正会員についても、新年度以降、順調に新規入会者が増加。
【審議結果】
入退会報告について、異議なく承認された。併せて、理事各位へ引続き会員増強についての協力が求められた。

3. 報告事項

1) ISF2024 国際シンポジウムについて・・・<机上配布>

【参加申込について】
・7月25日(木)時点の参加登録者数報告
・参加申込 Early bird August 31(Sat)まで、参加登録締切 November 22 (Fri)
【発表申込について】
・口頭発表件数181件(目標150件でしたので121%達成率)
・ポスター発表件数151件(目標150件でしたので100%達成率)
・当初の目標であった発表申込件数合計の300件を上回る結果となった。
・発表申込件数がアンバランスなため、G7、G8、G9は合同セッションにて実施。
・海外からの参加申込みはまだ少ない状況である。海外からの参加者増強のため、ITMG、ATC関係者と組織・実行委員会と継続して協力。最終的には、韓国から20~30名、台湾から10~20名程度を見込んで活動を継続。
その他、国内外問わず、近隣・知合いへの積極的な勧誘への協力を依頼した。
【スポンサー(展示・広告)について】
・Goldスポンサー(展示)14社申込
(一財)ポテン品質評価機構、東洋紡(株)、(一財)カケンテストセンター、(一社)日本繊維技術センター、日本製紙(株)、明成化学工業(株)、セトラスホールディングス(株)、日本化学繊維協会、富士紡ホールディングス(株)、日清紡テキスタイル(株)、大日精化工業(株)、(株)ミマキエンジニアリング、Spiber株式会社、(株)NHVコーポレーション)
・Bronzeスポンサー(展示)3社申込(旭化成(株)、(株)クラレ、NETZSCH Japan(株))
・一般スポンサー(展示)5社申込(NPO法人繊維技術活性化協会、日本化学繊維協会(2件)、マイクロ・イクイップメント(株)、京都工芸繊維大学・京都大学ジョイント)
・現状の予算案についても共有し、広告などへの協力についても引き続き依頼し、組織委員(理事メンバー)へ、参加登録を辻井会長より改めて依頼した。
2) 秋季研究発表会について・・・<資料2>
・11月28日(水)~29日(金)開催の秋季研究発表会の準備状況について、上高原実行委員長より進捗報告があった。目標発表件数は100件程度と定め準備中。併せて、秋研予稿集への広告掲載についても、協力を求められた。
・高校生セッションは、ISF2024の予定を鑑み、11月16日(土)午後ハイブリッドにて開催する事とした。審査員として、理事各位にもぜひ協力をいただきたい事が伝えられた。
【今後の高校生セッションのあり方について】

2) 2025年度 年次大会開催日程ならびに、実行委員長からの承認について
日程:2025年6月11日(水)-13日(金)タワーホール船堀
実行委員長:東京工業大学 教授 道信剛志
次期実行委員長について、関東支部からの推薦に基づき、運営委員会での審議を経た結果として道信氏を推薦する旨が村瀬副会長より説明がなされた。

【審議結果】
2025年度年次大会開催日程ならびに、実行委員長について異議なく承認された。
3) 2024年度繊維学会各賞選考委員会ならびに、募集について・・・<資料2>
「2024年度繊維学会各賞」選考委員会日程と選考委員選出の件について、学会賞規定・内規を共有し、事務局より説明がなされた。

【審議結果】
選考委員会日程は2025年2月15日(土)とし、選考委員会召集と委嘱については、執行部に一任されることで異議なく承認された。また、理事会終了後を募集開始時期とし、募集内容はHP、学会誌に掲載して会員へ通知することも併せて承認された。

4) 2024年度講座企画について・・・<資料3>
応用講座開催日程の件(2025年1月14日~24日頃、オンライン開催予定)
繊維技術講座休止の件
濱田副会長より近年の講座企画の収支を基に説明がなされた。

【審議結果】
応用講座の開催時期も勘案し、今年度も技術講座を休止とすることに異議なく承認された。
今後の運用方法、企画名称等の変更については、繊維学会の収益事業変更にあたるのではないかと木村理事の指摘を受け、規定などを再確認した上で、引き続き企画委員会を中心に検討し、変更の際は理事会に諮ることとした。

5) 小島基金リカレント教育支援制度への本年度応募者について・・・<資料4>
本年度応募者3名についての件について、資料4を基に説明がなされた。

【審議結果】
村瀬副会長より、運営委員会での3名承認の審議結果が伝えられた。理事会でも、応募者3名への支援について異議なく承認された。一方、申請書類の内容が統一されていないことについて中澤理事より指摘があった。次年度からは、フォーマットの統一化を図る方向で、運営委員長と事務局にて準備する事とした。なお、各位への通知については、会長名・運営委員長名にて事務局より通知する事で一任された。

6) 繊維学会ホームページ管理費値上げについて
2024年度分のホームページ管理費値上げの件(30,000円/月々、年間396,000円(税込)から35,000円/月々、年間462,000円(税込)、10年近く費用が据置であったこと、契約時に依頼していた業務内容からの大幅な業務内容の追加、会員向け情報発信のためのHP更新の頻度増加やSNS管理、学会誌、JFST Voiceなど新たなページ増加によるもの)

【審議結果】

今後は高校生セッションについては本部としてサポートしてほしいとの実行委員からの希望が上がっている。若手育成の観点からも、秋研の実行委員が対応するのではなく、学会全体としてサポートしていくことが、学会の看板事業にもなると考えた。また、若い頃から学会との接点を持つことも大事であると考えた。本件については、継続して検討。

3) 繊維系三学会合併に関する協議について・・・<机上配布>
・前回の繊維系三学会合併に関する協議会(以降、合併協議会)(第4回)の開催について辻井会長より報告された。三学会合併協議会は、各学会の会長、副会長、事務局で様々な検討を進めている。今回の合併協議会では、もし合併した場合にどういう学会になりたいのかを念頭に置いて、議論を進めている。現時点で合併ありきではないが、もう一度、会員の方々にご判断いただく提案ができるかどうか、来年の1月に、まずは理事会で審議いただきたいと考えている。検討していく段階では、理事会だけでなく会員との意見交換会や課題の共有、改善できることは改善し、最終的に理事会としての最もよい案を会員の皆様に提案し、ご判断いただくつもりであること、辻井会長より説明された。

WGのスケジュールは、6月・8月に中間答申、10月最終答申を予定している。中間答申初回は、各WGでどのような議論をしているのかについての報告が主となる。今後は、繊維学会WGメンバー同士でも集まって、意見、情報交換を行いたいと考えている。また、WGメンバーには、オブザーバーとして合併協議会(オンライン)へ参加いただき、忌憚のない意見をいただきたいと考えていること、辻井会長より伝えられた。

【各WGからの中間答申概略について】
事務局検討WG
・学会名、ビジョン、ミッション、定款、役員、理事会、学会運営に対する会員の方々の意見をどのように反映していくのか、支部、研究委員会、税理士法人など、課題の整理中
将来構想検討WG
・ビジョン・ミッション・アクションプラン、各学会の強み、寄せ集めではなく融合できる組織のあり方や認知度の向上を検討中

学会誌検討WG
・学会誌の方針、電子化、学会誌のあり方をどうするか検討中
論文誌検討WG
・英文誌JFSTのあり方、IFの向上、日本繊維機械学会誌JTEの継続についても意見が出ていることを受け、前回の検討事項を叩き台として検討中

年次大会検討WG
・年次大会の開催方法、日程、内容(セッション)、会場などについて検討中
催事・研究委員会検討WG
・各学会の活動をベースにしつつ、融合を考え検討中

国際化検討WG
・国際人材ネットワーク、新しい企画、国際会議、中長期展望に基づき検討中
財務検討WG
・事務局問題、会費(正会員、維持・賛助会員)について検討中

・各 WG でどんなことをしたいかが明確になってきた時点で、より詳細に財務検討を行う予定。学会として収支安定、財務基盤について検討（ベストシナリオ、ワーストシナリオ、ベターシナリオの提案）

HP 検討 WG

・現在メンバーの検討中で、発足していない。

【各 WG メンバーからの追加での報告について】

・ビジョンミッション案の具体化について検討中であること、将来構想検討 WG 委員・増田副会長より伝えられた。8月11日(日)に、次回 WG を組織学会事務局にて開催予定。
・合併した際には、会員の分野が幅広くなるので興味の対象がバランスよく掲載されるような学会誌発行について要検討中であること、また電子化についての意見交換も同時に進めていることについて、学会誌検討 WG 委員・村瀬副会長より伝えられた。また、学会誌の発行費用は財務にも大きく関わってくることから、電子化も見据えて要検討中であること、学会誌検討 WG 委員・内田理事からも伝えられた。

・JFST に一本化することが前回の合併の際の WG の結論であったが、今回、日本繊維機械学会から JTE を残す（3誌とする方向での提案）が WG で提案され、組織学会と日本繊維製品消費科学会の委員は驚いている状況、JTE を無くしてしまうことは忍びない感覚で動いていると推察するが、経済的な面でも、ジャーナルとしての力としても（本来なら JFST に一本化して、IF の向上などジャーナルの力を伸ばすことを考えるべき）、3誌を残すことでのメリットを十分に説明できない。ただ、日本繊維機械学会からの強い意見だったため、WG での判断ではなく合併協議会へ差し戻す形で一任している状況であること、論文誌検討 WG 委員・武野理事より伝えられた。

・合併後の年次大会については、まだ議論できていない状況。開催時期と回数（春秋）について、ここ数回の WG で検討されている。2027 年は、（合併してもなくても使える会場を手当する必要があることから）関東支部役員と事務局で、適当と思われる会場視察に行く予定（9 月）であること、年次大会検討 WG 委員・中澤理事より伝えられた。秋季研究発表会の意義について WG で何度も議論して出されたが、やはり会員の発表機会が大切であることを組織学会として主張し、開催する方向で議論は進んでいること、年次大会検討 WG 委員・花田理事より伝えられた。

・テキスタイルカレッジなど数多くの講座開催や、運営方法、収支管理など様々な点で組織学会と他 2 学会の運営方法が異なるので、引き続き議論していく方向。将来的には、関連する研究委員会の統合なども進める必要があるなど、引き続き検討を進めること、催事検討 WG 委員・濱田副会長より伝えられた。

・5月14日(火)に対面開催で WG を開催したがまだ具体的な進展はない。8 月中にも（後日 8 月 30 日（金）で開催決定）次の WG を開催予定。その際には、今まで国際連携を牽引してこられた各学会の先生方に参加いただき、国際ネットワークに関する今までの経緯など、意見を聞く予定であること、国際検討 WG 委員・木村理事より伝えられた。最終的には、WG として国際ネットワークの再構築などを行なっていきたい。

【財務検討 WG】

合併協議会で維持会員廃止（案）があるが、維持会員名を廃止して全て賛助会員とし、費用をパッケージ化することについてどう考えるか？

・維持会員も賛助会員も関係ない、支払う金額しか見ていない。金額の選択が、ランクなのか口数なのか明確であればいい。
・ただ、企業理事の一部からはパッケージ化されて、いろいろなオプションがついてくることは望まない。広告データを作るのにも費用がかかるので、効果的に活用したいとの意見があった。費用手続き方法は企業ごとに異なるので、WG で継続審議する。
・電子化された場合の広告の価値、あり方についても継続して審議してほしい。

【その他】

・合併の有無に関わらず、学会誌電子化についての会員アンケートを実施してはどうか。
・各学会の会員規模、予算規模、人件費、学会誌発行費、事務局費など、総会資料から拾うのではなく、比較表などのような形でまとめられたデータを提供いただきたい。
・合併した後の予算や経費を明示していない状態で、WG から提案していることが全て実施できると思えない。予算も限定される中で実際に実施できるのかわからないまま、どんどん各 WG で議論しても意味が無いように思う。合併した後の予算や経費はいつ示されるのか？先延ばしにした段階で、予算案が出てきても、また改めて WG の中で、（限られた予算の中で）何を一番重要とするか議論を再度行う必要が出てくるので時間の無駄では。一現状、様々積み上げて議論している状況。予算・経費に関しての意見について、次回の合併協議会で辻井会長から話をさせていただくこととなった。
また、次回の組織系三学会合併に関する協議会（第 5 回）は、組織学会が担当学会として、8月29日(木)（ハイブリッド開催）で開催予定。会員説明会の開催時期や合併に関する会員からの意見反映についても引き続き検討していくことが辻井会長より伝えられた。

4) 基礎講座の報告について

・「2024 年 組織学会基礎講座」
2024 年 7 月 18 日（木）、19 日（金）オンラインにて開催
・参加登録者数 117 名（うち講師 10 名）
・各日ともパネルディスカッションを実施、大変活発な意見交換がなされた。
・収支については、次回理事会にて報告することとした。

5) 報告・連絡事項

- ① 東北・北海道支部（支部長 松葉理事）
・（主催）(公社) 日本化学会東北支部（共催）組織学会東北・北海道支部
令和 6 年度化学系学協会東北大会 2024 年 9 月 14 日（土）～15 日（日）開催予定
- ② 関東支部（支部長 中澤理事）
・関東支部委員の交代が報告
・本年度の支部役員会は 7 月 31 日（木）に開催予定
- ③ 東海支部（支部長 水田理事）
・組織化学協議会 11 月 2 日（土）、3 日（日）に開催予定
組織学会推薦の招待講演 1 件は、元信州大学学長・濱田州博先生
・繊維研究会 12 月 6 日（金）開催を 3 学会にて共催を検討中
・（主催）(一社) 色材協会中部支部（協賛）組織学会東海支部
2024 年度 色材分析講座 2024 年 9 月 27 日（金）13:00～16:10（オンライン）開催

④ 北陸支部（支部長 末理事）

・組織学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部
2024 年度研究発表会 12 月頃開催予定

⑤ 関西支部（支部長 上高原理事）

・組織学会関西支部会議&記念講演会報告、見学会実施予定
・関西繊維科学賞、奨励賞も公募開始
・関西支部委員の交代報告

・秋季研究発表会への参加登録、広告協賛について引続きの協力依頼

⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）

・第 61 回化学関連支部合同九州大会（共催）報告
2024 年 6 月 29 日（土）に北九州国際会議場にて開催された
・2025 年 夏季セミナーについて（開催地：大分予定）

⑦ 研究委員会関係について

・感性研究フォーラム

第 59 回「感性研究フォーラム」講演会 年間テーマ「ジェンダーと感性」
2024 年 8 月 7 日（水）PM オンライン開催

・堅ろう度標準化研究委員会

第 2 回講演会 2024 年 9 月 18 日（水）PM ハイブリッド開催

・繊維基礎科学研究委員会

秋季研究発表会にて特別セッションを実施予定

・染色研究委員会

秋季研究発表会と同時開催にて「第 60 回染色化学討論会」を実施予定

・若手研究委員会

秋季研究発表会にて特別セッションを実施予定（招待講演のみ 10 件）

⑧ ATC-17 開催について

・会場：Feng Chia University, 台湾・台中

・会期：December 17-19, 2024

・FAPTA メンバーより Keynote Speaker を選出する件については、執行部で検討。

6) 各委員会からの報告等について

① 運営委員会

・運営委員報酬完了

・支部・研究委員会共催・協賛行事について・・・資料 6>

運営総会での「感覚と計測研究委員会」への指摘について、資料 6 を元に村瀬副会長より説明がなされた。感覚と計測研究委員会開催行事報告で、「共催」との記載があったにも関わらず、組織学会 HP で会告の掲載がなかったこと、日本繊維機械学会の会告で「共催」の記載がなかったことなど、虚偽の報告では無いか、組織学会からの支援金が講師謝金や交通費に支出されているのであれば返金を求めるべきなどの指摘があり調査したところ、2023 年だけでなく、2022 年度、2021 年度、2017 年度も同様の状況であった。多年にわたって、同様の状況が続いていたことが判明したことから、当該研究委員会の現委員長に伺ったところ、「共催として開催していたが、手続き上の落ち度で会告

等の掲載が抜けていた」として詫言をいただいた。現在は、委員長からのお詫言と共に、共催であったことを記載した修正会告を組織学会 HP に掲載している。日本繊維機械学会側でも、共催と記載した会告に差替えを行い、理事会判断で今後何らかの対応が検討されていると伺っていること、説明がなされた。また、今年度執行部については、テキスタイルカレッジとの共催は中止する。ただ、組織学会には協賛・共催に関する規定がなかったこと、委員長からお詫言で対応いただいていること、手続き上の不備であったことの説明もいただいていること、本年度の補助金も返納予定ということから、執行部としては本件をこれで収めたいと考えている。また、会告で会員への周知を考えたとき、支部や他の研究委員会活動でも同様の抜けがあったことも今回の調査から判明している。歴代理事会の監督体制にも問題があったことは反省すべき点であり、ガバナンスの整備を進めると同時に、今後、協賛・共催規定の作成にも取り組んでいくことが村瀬副会長より説明された。

【本件対応に関する理事からの意見】

・総会での質問に関しては、答える義務があるが、質問に対して全会員にわかるようなように回答するのか？

・日本繊維機械学会 HP 上にある今までのテキスタイルカレッジ全ての会告が改変されているが、事実としては「共催」を知らずに開催していたにも関わらず、それを後出しジャンケンのように変えてしまうことに問題はないのか。信用を落とすことになるのではないか？詫言だけの対応で良かったにも関わらず、「開通ってしまった」と言いたがために、PDF 全てを変えてしまっていることについていまいかという見解も説明が

・会員から指摘のあった資金流用についても「資金流用ではない」という明確な説明が詫言からは読み取れない。また、会告を掲載していたら参加した組織学会員がいたかもしれないが、そのチャンスを奪っていることには違いないので、今回は、PDF を変えずに詫言だけを掲載する対応がよいのではないかと。

・結果として、会員へ会告されていなかったのは事実で、過去のことを共催していたように変えてしまうことに問題がある。詫言で「組織学会からの参加者はいませんでした」として書いているが、会告を掲載していないから参加者がいなかったのは当然ではないか？

・総会が出された質問に関する回答の対応と、研究委員会に対する対応は別では。
・共催として会告が出されていなかった年については（会員へのサービスをしていないので）、組織学会からは本来支出すべきではないので、その金額を（内部資料でもいよい）明確に示す資料作成の必要がある。

一執行部としては、組織学会の会員、感覚と計測研究委員会委員長としての立場で、日本繊維機械学会と共催で準備していただいていたと理解している。また、実態がどうであったかについては、我々では判断しかねる状況であるが、分野の振興のため、講師を選んいただいたなど、共催の形を企画していただいていたと考える。

【結論】大変重い事案であるが、今後の対応については執行部に一任いただき引き続き検討を進めていく。また、会員への説明としては、この説明ではなく、ガバナンスを利かした対応をすることや規定の整備も含め、共催・協賛のあり方についても会長名で文章を出すなど早急な対応を検討する。なお、本件については次回の理事会で進捗

を報告すると共に審議いただくこととさせていただきます。急ぎ対応する必要もあることから、それ以前にメール審議とさせていただきますけれども、ご了承いただけます。本件に関連して、支部・研究委員会行事についても引き続き調査を進め、会員への案内漏れがないよう徹底して対策し対応していく。

- ② 企画委員会
 - ・2024・2025年度企画委員会メンバー（21名）への委嘱完了
- ③ 国際連携委員会
 - ・ISF2024 国際シンポジウムでの Special Session 3 は順調に進んでおり講師として日本から3名、シンガポール、インドネシア、タイを予定
 - ・国際ネットワーク作りの再構築
- ④ 将来構想委員会
 - ・委員会を組織中であること、村瀬副会長より報告された。
- 7) 支部長・研究委員長会議について
 - ・6月末までに本年度の本部支援金支給完了
 - ・スマートテキスト研究会 運営委員が奥林前副会長から村瀬副会長へ交代
- 8) 編集委員会の報告
 - ① 繊維学会誌
 - ・発行準備は順調に進んでおり、内田編集委員長より協力のお礼が伝えられた。
 - ・80周年記念特集号についての準備状況についても報告がなされた。
 - ② 論文誌 JFST
 - ・武野編集委員長より委員長交代のご挨拶
 - ・発行準備も順調に進んでいることについて協力のお礼が伝えられた。
 - ・ATC-16 同様に ISF2024 特集号の準備をする予定
- 9) その他案件
 - ① 学会運営組織図について・・・資料7>
 - ・辻井会長より学会の運営組織図について案が共有され、今後の運営方法について説明がなされた。
 - ② 役員選考について
 - ・次期の会長選挙にあたり、過去の通常総会や理事からも会長選挙についての意見があったことを踏まえ、より多くの一般会員の声を反映させる意味でも、現在の会長候補者選考方法を変え、会員による会長選挙を実施してはどうか。既に会員による会長選挙を実施している学会もある。方法については、今後検討していくとして本件についてどう考えるか。
 - 【理事意見】
 - ・一般会員の声を聞かない選択はないので、ぜひ、会長選挙を実施する方向で検討してはどうか。運用方法は今後考えていくとして、選挙を実施することに賛成。
 - ・会員に直接意思表示をいただくことは重要。
 - ・高分子学会のように選考委員会を発足し、選挙管理委員会を作って運用するのがよいのではないか。投票システムにも費用がかかることも考えられるので、その辺りも含めて会長選挙の実施方法等今後議論してはどうか。

- ① 次回理事会で、本件に関するたたき台を作成し、執行部より提案する事とした。
- ③ 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・資料8> 辻井会長、事務局より資料8の掲載予定担当者への協力依頼を行なった。

- ④ 今後の理事会日程について
 - 2024年 9月7日（土）オンライン開催
 - 2024年 11月16日（土）10:00-12:30 オンライン開催
 - *この日の理事会に限り午前開催、午後は高校生セッションを開催で了解頂いた。
 - 2025年 1月25日（土）対面開催（東京）*当初の日程から変更あり
 - 2025年 3月22日（土）オンライン開催
 - 【学会賞選考委員会】
 - 2025年 2月15日（土）オンライン開催（東京）
 - 【監査委員会】
 - 2025年 4月26日（土）対面開催（東京）
- ⑤ 新理事の法人役員登記手続きについて
 - 無事に完了したこと事務局より報告
- ⑥ 今後の学会行事担当について
 - *2027年6月年次大会 別会場手配について検討する必要あり

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
年次大会	関東支部	関東支部 実行委員長・通信理事	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部 実行委員長・松理事	関西支部	関西支部	関西支部

- ⑦ 新任理事である永田理事、上高原理事、増森理事、巽理事、氏家理事より一言ご挨拶いただいた。

4. 監事コメント

【六田監事】

新会長から新たな方針が示されたように、理事の皆様には出身母体の代表ではなく、繊維学会の一員として協力し、法令や定款に基づきしっかりと理事会運営を進めていただきたい。特に、研究委員会の対応については次回の審議事項（議題）としてしっかりと対応を検討いただきたい。法人法でもあるように、善管注意義務をしっかりと意識して進めてください。

【土田監事】

正会員数が再び1000名を超えたことを大変嬉しく思っている。一つの明るい話題である。また、三学会合併の検討 WG では、資料から様々な皆様に努力いただき、ご協力のもと検討していただいていること改めて感謝申し上げます。特に、前回の合併協議で会員から指摘いただいた点、懸念事項とされていたことなど、会員の皆様へ常に情報を提供して、不透明のないよう対応をお願いします。

【小原監事】

秋季研究発表会の高校生セッションについては大変素晴らしい取り組みだと思う。特に、高校生に最近「探究」の科目が増えたが、十分な教員が足りていないと聞いている。高校

生セッションを通じて、繊維学を認知していただく良い機会にもなり、高校生がリサーチしたことに対する、的確な助言が行える場を提供できるのは素晴らしいと考えます。合併検討については、「他の二学会の情報を既に知っているだろう」ではなく、比較表などで現在の収支状況や学会規模などの情報を開示し、検討、議論する材料にしてほしい。また会員へしっかりと説明し、理解していただくために必要な情報提供を直しくお願いします。また、協賛や共催のあり方もしっかりと考え、注意義務とともに再発防止にも努めていただきたいと思います。

第710回理事会 議事録署名人 捺印

議長: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

繊維系三学会合併に関する協議会（第5回）議事録

【日時】2024年8月29日（木）13:00～16:30

【方法】ハイブリッド開催

会場：キャンパスプラザ京都 第8講義室

オンライン：Zoom

幹事学会：繊維学会

【出席】※OL：オンライン

	繊維学会	日本繊維製品消費科学会	日本繊維機械学会
会長	辻井敬豆（京都大学）	大矢 勝（横浜国立大学）	田上 秀一（福井大学）
副会長	濱田仁美（東京家政大学）OL	榎本 雅徳（京都女子大学）	金井 博幸（信州大学）OL
副会長	増田 正人（東レ）OL	小田 直規（東レ）	倉敷 哲生（大阪大学）
副会長	村瀬 浩貴（共立女子大学）OL	森下あおい（滋賀県立大学）	西脇 剛史（アジックス）OL
事務局長	山本 恵美OL	（欠席）西 良造	高平 恭謙
事務局	—	山田 熊（書記担当）	—

WGメンバー（オンラインにてオブザーバー参加）

廣垣和正（福井大）：将来構想WG

竹本由美子（武庫川女子大）：将来構想WG

小野 努（岡山大）：国際化WG

【内容】

1. 中間答申に関する意見交換

各WGから、それぞれの中間答申に関して説明いただいた後、意見交換を行った。なお、中間答申は議論の途中経過を含むものであることに留意すること。

また、最終答申に向けて、答申内容の再考やWG間での連携に活用すべく、以下では、主な質疑応答・コメントを中心に記載した。

まず、検討にあたり、以下の点を確認した。

- 本協議会では、「現行3学会の活動をどのように落とし込めるか、成立するか（現会員サービス、リソースの有効活用という観点では重要）」に加えて、「合併した1学会としてどうあるべきか」という観点から、大まかな方針・考え方、体制、課題を検討する。
- WG/協議会答申をたたき台として、各学会で検討し（理事会や会員との意見交換会など）、それらをフィードバックして、一学会として目指すビジョン・ミッションをブラッシュアップしていく（課題にも真摯に向かい合う）。
- WGでどこまで決めないといけないかは難しい問題であり、まずは大まかな目標を提示することになる。合併に向けてGoサインが得られれば、本格的なWGが立ち上がることになると思われる。
- 各学会の良さ、伝統と文化は引き継ぎつつ、それらを有機的に融合させ、あらたなステージを目指していく。

(1) 事務局検討 WG

新学会の名称、定款、役員・運営体制、事務局体制、支部体制、委員会組織等の検討状況が報告された。

コメント・質疑

1

- 運営体制組織図案では国際交流委員会が設けられている。国際交流は企画や広報にも関わるので単独委員会を設けるのがよいのか。あるいは、各委員会に国際的な視点を入れていくのがよいのか。

→提示した組織図はたたき台であり、各WGで検討した内容を実施するのにどういう組織が必要かを検討いただき、（国際交流委員会に限らず）この案に投げ込んでいただきたい。

(2) 将来構想 WG

新学会のビジョン、ミッション、アクションプランの案が提示された。ビジョンは「日本を代表する新学会として、英知を結集し、更なる学術の発展と学術文化産業のイノベーション促進により未来社会を見据えた価値創造を強力に推進する」こと。ミッションは「学会の魅力度向上」「新分野の開拓」「学術と技術の継承」「会員増強・運営基盤の強化」の4つが掲げられ、それぞれにアクションプラン案が提案された。

コメント・質疑

- 今後より具体的な学会の魅力について、特に企業理事の立場からはビジネス関連でも具体案を議論していきたい。
- 新しい枠組みで一体感を醸成していくにはキャッチフレーズが大事だと思う。
- 各WGで検討されていることがどのミッション・アクションプランに対応するのかも念頭に考えてもらえると良い。びつたり合うものがなければ、項目追加について、将来構想WGリーダーに相談・提案してほしい。
- アクションプランは大事。具体的なアクション、ロールモデル的なアクションを1つでも2つでも提案することで、一学会になる魅力が具体的に会員に届くのではないかと。
- 一法人になることで「こんな魅力的なことが実際に運営できていくんだよ」みたいなところが皆さん一番気になるであろう。
- セールスポイントとなるような具体案も考えてほしい
- WG内での議論で、例えば、社会実装までの流れが現実的かわかるようにして、ビジネス分野と関連する研究分野を融合しながら、この学会では、こういう新しいことができる、こういう出会いがあって、こういうことが生まれるように考えていく。
- よりわかりやすく伝えるために、前回検討した繊維イノベーションエコシステムなどのボンチ絵をブラッシュアップしていく。
- 全体像を示しつつロールモデルを検討。タイムスパンも違うはずなので、それも加味した提案も必要。合併せずとも個別に目指すべきミッションの場合、合併したからこその具体的なこう達成できるんだというシナリオが示せればよいのではないかと。
- あるWGから別のWGへの提案や相談もよいのではないかと。
- 将来構想WGとしては是非いろいろと投げ込んでいただきたい。国際などは特に重要と考える。

(3) 学会誌検討 WG

新学会誌の編集方針や体制について報告された。新学会誌は、川上から川下までの幅広い会員の関心に対応できる内容を目指す方針。電子化については、独自システムを構築するか、J-Stageのみを利用するかなども検討中であり、また、広告収入の確保や確認購入者への対応も課題とされた。

コメント・質疑

2

- 「この雑誌を読みたいから会員になっている」というような紙面づくりを目指したい。
- 合併を決議していないのに組織を立ち上げるのは難しい。決議の後に速やかにスタートできる準備を進めておくらうか。
- 学会を知らない人へもアプローチできる学会誌を目指していきたい。
- 会誌発行は合併後直ち（同月）が必須か？準備の都合で遅らせる選択肢はどうか。
- お祝いの号（第1号）はタイミングを外さない。また、第1号で盛り上げた期待感を継続するには、その後の企画が大事。各会員の興味ある内容がうまくくり返されている工夫も必要。そのため準備に1年近くかかるのはないか。
- 合併することになれば、現行の各学会誌の最終号（特別企画）の準備も重要。
- 原稿依頼・収集も課題。原稿作成にあたり編集委員の支援（査読と手直し）がどれくらい可能か、また、必要か。編集委員会が動き出した後の実際の課題かと思われる。
- 電子化にあたり、J-Stageのみならず目次やアブストラクトなどはHPで見られるのがよい。
- メールアドレスやSNSを通してJ-Stageにアクセスしやすくすることも必要。メール案内の際に広告を組み込み、広告料を徴収することもありか。
- 新しい学会誌として、新しいコンセプトをしっかりと設定できるとよりよいのではないかと（専門外への情報発信、次世代ジュニア世代向けなど）
- 会員外へのアプローチにも電子化は有用（電子翻訳を使えば海外展開も）。クロスド期間をどのくらいに設定するのが妥当なのかの検討も必要。会員を呼び込む、アクションプランに繋がるアピールポイントも考えていきたい。

(4) 論文誌検討 WG

新学会としての学術誌のあり方・体制、位置づけ、編集方針などについての検討状況が報告された。

コメント・質疑

- JFSTコンセプトやカテゴリー問題にも関連し、繊維機械分野が十分にカバーされていない？JTEがなくなるとこの関連の論文がなくなる？などの懸念なども含めて検討いただきたい。歴史的蓄積（多年にわたって継続している雑誌もあまりない）を重視する意見もある。
- 今後最終答申が出た際に、会員から同様の意見が出ることが予想されるため、今回の議論も元々、論文誌のあり方や対応等を協議会としても検討しておく必要がある。特に、二誌の場合はそれぞれの位置づけが重要。例えば、JIPを上げ、繊維を代表するグローバルジャーナルを目指すものと、取りこぼしなく裾野を広げてJIPが高くなるとも自らの業績を発表していくジャーナル（英文でも投稿できる）も必要ではないか。
- 技術的論文を英文で出す際に、JFST以外の選択肢も必要ではないか（企業研究者からの投稿などを想定）
- JSTFを英文論文のみ、もう一つのジャーナルを基本和文ながら、ある分野だけ英語論文の投稿を認めるという別扱いではなく、それぞれの雑誌全体の方針を決めて、二誌のコンセプトをうまく設定することで対応できないか。例えば、社会実装技術という観点。一方、日本語で学術論文を投稿したいという希望もあるかもしれない。
- 各学会の論文誌は長い歴史を有するので、それを活かしつつ世界にアピールできるジャーナルを目指してほしい。是非、投稿したいと思えるようなジャーナル、また、その策なども検討いただきたい。

3

- アーカイブを整備して貴重は蓄積を有効活用できる体制も検討いただきたい。

(5) 年次大会検討 WG

合併した際に年次大会・秋季研究発表会を実際に開催できるかについて、開催日程、開催場所・会場、予算等の観点を含めて具体的に検討を進めている。

コメント・質疑

- 参加者想定770名は非現実的ではなく十分目指せる数であり、事業規模1000万円は妥当な線と考える。
- 参加費はどの学会も参加費値上りが傾向。取支としては、どれくらい参加者が集まるかが重要。
- 合併して融合を図っていくために発表分野を見直していただきたいのはよい。新学会の年次大会として注力する観点や企画があってもよいのではないかと。例えば、産学連携。企業の方に参加いただきたい（現状でも日本繊維製品消費科学会などでは企業参加も多数であり、その活動を加速する工夫はできないか）。
- 運営の効率化（事業経費の節約）を図れないか。例えば、2019年度の3学会年次大会経費の合計より、合併した場合の想定経費がそれほど下がっていないように思える。
- 会場費が占める割合が大きい。どこまでできるかわからないが削減・効率化を更に検討する。
- 経費抑制のために大学開催の余地はどうか。
- 6月は難しく、可能性があるのは9月あるいは3月。ただ、秋季研究発表会や夏季セミナーとの兼ね合い等を加味して検討しなければならない。9月あるいは3月は難しいかも。
- 経費シミュレーションに関して、財務WGとも連携させていただきたい。
- 6月土日の大学開催はどうか。
- 大学による。企業からの参加がどうか。
- 企業との連携はどうか。企業の方々が年次大会とどう関わっているか。
- 企業でも、実際に参加した人は（行かされた人も）好印象を持っている。いかに参加してもらえかが鍵。一方、費用対効果を見ると、土日に高いお金を払って年次大会に出すより、直接大学にアプローチしたほうがよいという風潮？も。ということで、新学会としては第1回目の年次大会が非常に重要。企業からも多くの人を出してもらい、さらに、よい印象・成果を持ち帰ってもらって、その後が続くことが重要（合併により変革をアピールするチャンス、それに見合う企画が必要）。
- 企業から参加させたいような取り組みが重要。魅力に感じるポイントとして、例えば、何か発見があること。セッションを大括弧にして自分の専門以外の発表も聞いて、そこから共同研究に繋がるなど。周りで成功事例があれば参加希望者も増え、好循環となっていくのではないかと。
- 将来構想とも関連して、年次大会に参加した際に、様々なディスカッション、出会いができる場であってほしい。将来構想WGとも連携して検討いただきたい。また、第1回は是非とも大々的に実施すべき。
- やはり第1回目が重要。ビジョン・ミッションとも連動して、新しい学会としてこういうテーマに注力するというメッセージの発信も。年次大会だけでなく、学会誌、研究会の活動も含めて、新学会のフラッグシップを設定し、学会内外、分野内外に発信。現行の3学会メンバーだけでなく、外の人ももアプローチして、賛同者（会員）を増やしてスタートを切れるような工夫が検討できればと考える。

4

- この学会に来たら、これがある！というのが理想。

(6) 催事・研究(委員)会検討 WG

名称は「研究会」とし、運営形態は3つのパターン、研究会の統廃合の手順として3つのステップが提示された。また、企画委員会に関しては、2つの分科会を設置し、下位のWGまでは規定せず現状の企画をリストアップ、いくつか例示するとともに、自由度・柔軟性のある形で提案としたこと、会計処理は本部事務局が担当する案が提案された。最後に、夏季セミナーについても検討中である。

コメント・質疑

- オープンとクロズドの研究会についての議論はどうか。両者では活動内容も自ずと異なると考えられる。「新研究会発足時はクロズドがよい(自由に発言・意見交換ができる)」、「独立採算ならクロズドでも」、「学会から支援金ももらってればオープンであるべき」、「企業の方はクロズドだと話やすい面もあるか」など、いろいろな視点があるかと思われる。今後、検討いただきたい。
- クロズドの研究会は、新学会として一定数あることはよいのではないかと。特に企業研究者も巻き込んで、オープンでは話せないことを一方踏み込んで連携が図れるようなことになればよい。ただ、クロズドといえども、企業の方は踏み込んだ話はいくつか現状かも。
- 新分野開拓などはトップダウン的にテーマを決めて先導するものよいのではないかと。
- 新しい学会として、今の活動をうまく組み込んで発展させるだけでなく、新しいスタイルやチャレンジを試みるというメッセージも伝わるとよいのではないかと。

(7) 国際化 WG

8/30にWG開催予定であり、今回の報告等はスキップとなった。

(8) 財務検討 WG

会員数(重複を省いて1,390名)、会費設定(正会員、学生会費、維持会員と賛助会員の区別をなくす)、人件費、固定費などを基本データに基づいて想定しつつシミュレーションを行い、ベストケースからワーストケースまでを検討した。検討できていない項目に関しては該当WGからの情報を待つ追加、その他、広告、法人会員の扱いなども含めて精度を高めるべく再検討の予定(WGでの取り組みによっては費目・経費などの見直しも必要)。

コメント・質疑

- 企業で資金を捻出する状況はいろいろ。厳しい状況でも支払える工夫があればありがたい。
- パッケージ化、年初払いに対応しやすい、学会としても計画を立てやすいということもある。ただ、オプション設定として柔軟性を持たせたいという思いもある。
- 会員の重複に関して名簿を付き合わせて精査するのかどうかは今後の検討(事務局等の手回りが大きい)。
- 現状のシミュレーションでは、諸事情で現状加味されていない、研究会・支部の活性化、事務局の効率化のためのシステム導入、国際化の取り組み、新学会としての新たな取り組みなどを実施する余裕が十分にないのが大きな課題ではないか。ビジョン・ミッションで素晴らしいフラッグシップを掲げても、それを財政的に実現できるのか。更なる工夫が必要ではないか。
- 固定費をどこまで減らせるか一つのポイント。ただ、人件費も含めて、黒字着地に持っていかけるかは今後の課題。健全な財務を組み立てるには会費収入すなわち会員数を増やすが正当。賛助会員・口数も見直す必要あり。そのためにビジョン・ミッションとして魅力ある学会をしっかりアピールしていか

5

なければならない。

- 能事による収益は期待されるが、できれば、これはプラスアルファと考え、これを余裕として新しい取り組みを積極的に実施できるよう、基礎的な財務を構築できるとよい。
- 人件費の比率が高いのどうか。効率化を図りつつも、積極的にエフォートをつぎ込んでいく必要性など、現行体制・体制を有効活用できるかどうか、具体的なシナリオを含めて検討するのも一案ではないか。
- 経費削減があまりに過大制約にならないように検討すべき。事務効率化のために投資し、それに切り出した事務局エフォートで新規事業の実施や学会運営に協力いただいている教員等の負担を軽減することも必要(赤字体質ではなく収支バランスが成立していることが前提ながら)。
- 固定費については事務局検討WGと連携して精査いただきたい。
- 承知した。会員数の見積もりや会費も見積もりも含めて精度を上げていく。人件費が嵩むのは、学会の場合に事務局負担が大きいためか。ちなみに、現状の3学会では事務局のカバーする範囲がかなり違う。この点でも、新学会の事務局のあり方について検討・見直しは必要と考える。
- 学会誌関連の経費に関して、電子化した場合の想定も含め、再検討する。学会誌の広告収入に関して、すべてが賛助会員だけではないので、それらを加味する必要がある。
- エクストラの広告費は、学会誌のほか、研究会、催事等でも想定される。今後、各WGとも相談しながら加味していく。
- 法人関係の会費・広告料という観点で、3学会合計から減るのは当然ながらも、現状シミュレーションではかなり少ない見積もりとなっている。口数を含めて、再検討が必要。
- 会費対会費はそこそこの精度ながら、広告分については今後の精査が必要。
- 「新しい学会としてこれだけのことをやるのでそれに必要な経費を何と捻出する」、「想定収入・予算がこれくらいなので、その範囲でできることを検討する」、これらは両極端でありながらも、両面あるいは課題毎で調整しながら落としどころを探っていく必要があるのではないかと。
- 法人会費費に関しては、新しい学会を強くして協働していくためにこれだけの費用が必要というリーズナブルな理由があれば、企業としても検討の余地はあると思う。という意味で、現状シミュレーションより上積み可能と考える(上限数値が一人歩きしてしまうことを懸念する)。

(9) HP 検討 WG

今後立ち上げて、議論を開始予定。

2. WG答申等の取り扱いと今後の対応

- 早い段階で各学会でいろいろな意見を伺い、それも合わせてブラッシュアップしていく。現状の中間答申では、会員公聴会までは難しく、まずは理事会ベースでの検討がよい。また、課題がしっくり挙がっているのはよい。
- WG答申を理事会に出して良いか?→催事に関する広告費を切り出して検討できていないことなどもあり、財務シミュレーション結果は適当ではないのではないかと改訂版を検討することとなった。
- 本日の議論を理事会に持ち帰って検討する。その後、各学会のWGメンバーを通して各WGにフィードバックする。
- 国際化WGとすれば、今日のディスカッションの中でも、例えば学会誌WGでHTML化の話とかがあった、これらの学会誌学会の情報を海外の方に知っていただくことも非常に重要であり、一方、連携を組んで海外の学会の情報を学会誌の方に載せていくことも当然必要になってくると思う。国際とし

6

で何が具体的に必要なのかを含め、WGリーダーが知る機会(協議会へのオブザーバー参加)は非常に重要だと思うリーダーのみならずWGメンバーの参加は了解済み。

3. その他

オブザーバー参加のWG委員よりコメントをいただいた。

- 廣垣先生(福井大)：将来構想WGメンバー
各WGで決めていたかなければならないことや、将来構想に沿って各WGで検討したかなければならないことがあり、全体の議論に参加させていただいたことはよい機会となった。
- 竹本先生(武庫川女子大)：将来構想WGメンバー
全体をわかった上で将来構想を考えていかなければいけないことを確認する機会となった。新しい学会としての魅力みたいなところをこちらから提案したほうがよいことも理解できた。各WGからも出していただきつつ将来的な観点でロールモデルを提示してほしいという意見もいただいた。組織の開発から社会実装までなど、他の方も想像ができる提案ができたかと思っている。
- 小野先生(岡山大)：国際化WGメンバー
全体の議論を聞かせてもらえてよかった。三学会が統合することによってどういう魅力を出すか、ここでの議論というのが重要だと聞かせてもらった。細かいところは各WGで詰めていくところかなと思うが、やはり国際化でもどういう方針かという全体的なものがないと活動しにくいので、ここでの議論はありがたい。
最近、他の学会でビジョンを作成したが、その際にビジョンとミッションが逆転していた。MVVというように、ミッションが一番上であって、それに対するビジョンという考え方があった(いろいろな出し方があるのかも)。企業の方もいっしょなので、皆さんにとって一番分かり易いものを設定するのがよいかと。
全体的にはオブザーバーとして参加させていただいて、大変な気持ちだと思っている。

4. 今後の予定

協議会の今後の予定：各WGからの最終答申を受けて開催することになるが、本日のフィードバックもあるので、可能であればその間にもう1回の開催を検討する。

7

繊維学会 各賞募集について

2024年度(令和6年度)繊維学会各賞授賞候補者募集のお知らせ

2019年度より学会賞の受賞対象者年齢を満56歳未満に変更しました。
2019年度より奨励賞の受賞対象者年齢を満41歳未満に変更しました。

繊維学会では、功績賞、学会賞、技術賞、論文賞、奨励賞、紙・パルプ論文賞を設け、一般会員より広く推薦(応募)を求めています。2024年度(令和6年度)も各賞の表彰を行いたく、授賞候補者の〈ご推薦〉または、〈ご応募〉を受け賜りますようお願い申し上げます。

なお、論文賞については、一般公募をせず、論文賞選考委員により2024年1月号から同年12月号の繊維学会論文誌(JFST)に電子掲載されました査読論文より選考されます。

ご推薦(ご応募)書類は、締切り期限までに下記の所属支部長または、学会事務局へ提出をお願いいたします。

- ・ご推薦(ご応募)書類はホームページ <https://www.fiber.or.jp/jpn/awards/index.html> よりダウンロードのうえご準備ください。
- ・会員(維持会員、賛助会員を含む)は受賞候補者の資格を有し、自薦・他薦を問わない。
- ・ご推薦(ご応募)書類の提出期限は2024年12月25日(水)迄です。
- ・歴代の各賞受賞者は、ホームページ <https://www.fiber.or.jp/jpn/awards/prizeF.html> に掲載しております。

1. 繊維学会功績賞

- ①対象：原則として、受賞年(2025年)の4月1日において満60歳以上の本会会員で、長年にわたり繊維学会の発展に顕著な業績をあげた者、または繊維科学あるいは繊維工業の発展に優れた業績をあげた者。
- ②表彰の件数：原則、5件以内。
- ③表彰状および賞牌の授与。

2. 繊維学会賞

- ①対象：原則として、受賞年(2025年)の4月1日において満56歳未満の本会会員であること。
繊維科学について独創的で優秀な研究を行い、さらに研究の発展が期待される研究者。
- ②表彰の件数：原則、2件以内。
- ③表彰状、賞牌および副賞の授与。

3. 技術賞

- ①対象：本会会員(維持・賛助会員を含む)で、繊維に関する技術について、優秀な研究や発明、または開発を行い繊維工業の発展に貢献した個人またはグループ。
- ②表彰の件数：原則として、技術部門3件以内、市場部門1件以内。
- ③表彰状および賞牌の授与。

4. 論文賞

- ①対象：本会会員(維持・賛助会員を含む)で、繊維科学および繊維技術に関し、その年(2024年1月号～2024年12月号)の本会論文誌(JFST)に論文を発表した研究者。
- ②表彰の件数：3件以内。
- ③表彰状、賞牌および副賞の授与。

5. 奨励賞

- ①対象：原則として、受賞年(2025年)の4月1日において満41歳未満の本会会員であること。
繊維科学もしくは繊維技術について優秀な研究を行い、今後も継続して期待ができる新進気鋭の研究者。
- ②表彰の件数：原則として、3件以内。
- ③表彰状、賞牌および副賞の授与。

6. 紙・パルプ論文賞(事前に事務局へお問い合わせください)

- ①対象：原則として、受賞年(2025年)の4月1日において満41歳未満の本会会員であること。
過去5年間に本会論文誌(JFST)に論文2編以上を発表した新進気鋭の研究者。
- ②推薦(応募)書類は、学会事務局へ期限までに提出をお願いいたします。
- ③表彰の件数：原則として、1件以内。
- ④表彰状、賞牌および副賞の授与。

問合せ先

本部 一般社団法人 繊維学会事務局
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208
E-mail : office[at]fiber.or.jp ※[at]を@に変えてお送りください。

支部 各支部の支部長へお問い合わせください。
各支部長の連絡先が不明の場合は、繊維学会事務局にお問い合わせください。

69th FRP CON-EX 2024

主催：一般社団法人 強化プラスチック協会
日時：2024年10月17日(木)～18日(金)
会場：大阪科学技術センター
プログラム：詳細はHP(<https://jrps.or.jp/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：一般社団法人 強化プラスチック協会
電話：03-5812-3370 FAX：03-5812-3375
メール：frp.con-ex2024@jrps.or.jp

福井大学 繊維・マテリアル研究センター 教員公募

職名及び人数：教授1名
専門分野：繊維工学、あるいは高分子・機能性材料およびその関連分野
応募締切：2024年10月31日(木)必着
繊維・マテリアル研究センターHP：<https://www.fmc.u-fukui.ac.jp>
問合せ先：福井大学 学術研究院先進部門
繊維・マテリアル研究センター長 田上 秀一
電話：0776-27-8969 Fax：0776-27-8767
E-mail：tanoue@u-fukui.ac.jp

第296回ゴム技術シンポジウム ゴム分析の基礎と最近の話題－AI活用、環境規制

主催：一般社団法人 日本ゴム協会研究部会 分析研究分科会
日時：2024年11月8日(金)
会場：東部ビル5階(ハイブリッド開催)
プログラム：詳細はHP(<https://www.srij.or.jp/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第296回ゴム技術シンポジウム係
TEL：03-3401-2957
E-mail：kenkyuubukai@srij.or.jp

第20回高分子表面研究討論会

主催：高分子学会 高分子表面研究会
日時：2024年11月8日(金)
会場：医療イノベーション推進センター(TRI)
プログラム：詳細はHP(<https://member.spsj.or.jp/event/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：公益社団法人 高分子学会 第20回高分子表面研究討論会係
TEL：03-5540-3771 FAX：03-5540-3737

第64回秋期ゴム技術講習会 「ゴム超入門講座Ⅳ～ゴムってどんなもの?～」

主催：日本ゴム協会関東支部
日時：2024年11月12日(火)～13日(水)
開催形式：オンライン開催
プログラム：詳細はHP(<https://www.srij.or.jp/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会関東支部 秋期ゴム技術講習会係
E-mail：kanto@srij.or.jp

2024年度第24回GSC賞募集

グリーン・サステナブルケミストリー(GSC)の推進に貢献する優れた業績を挙げた個人、団体を表彰いたします。
応募要領：HP(https://www.jaci.or.jp/gscn/page_03.html)をご参照ください。
応募締切：HPからの応募2024年11月15日(金)17時厳守
応募書類の提出2024年11月18日(月)17時必着
応募書類送付先及び問合せ先：
公益社団法人 新化学技術推進協会(JACI)GSC賞事務局
E-mail：gscn24@jaci.or.jp
TEL：03-6272-6880(代) FAX：03-5211-5920

第63回機能紙研究会

主催：特定非営利活動法人 機能紙研究会
日時：2024年11月21日(木)
会場：タワーホール船堀
プログラム：詳細はHP(<http://www.e-kami.or.jp/HP/kinoushi/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：特定非営利活動法人 機能紙研究会 事務局
TEL：0896-58-2055 FAX：0896-58-6240
E-mail：kinoushi@e-kami.or.jp

日本化学連合 化学コミュニケーション賞2024

「化学・化学技術」に対する社会の理解を深めることに貢献した個人および団体(企業、学協会、各種NPO、学校法人など)を顕彰しその栄誉を称えています。
表彰件数：3件以内
応募期間：2024年10月1日～2024年12月10日(当日消印有効)
提出および問合せ先：
(一社)日本化学連合事務局 化学コミュニケーション賞係
E-mail：secretariat@jucst.org

2024年度JCOM若手シンポジウム

主催：日本材料学会
日時：2024年12月11日(水)～13日(金)
会場：淡路島観光ホテル
プログラム：詳細はHP(<http://compo.jsms.jp/>)をご参照ください。
申込方法：上記HPよりお申込みください。
問合せ先：公益社団法人 日本材料学会
「JCOM若手シンポジウム」係
FAX：(075)761-5325 TEL：(075)761-5321
E-mail：JCOM2024wakate@office.jsms.jp

令和7年度公益信託家政学研究助成基金申請公募

応募要領：詳細は<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h130515-1.pdf>を参照ください。
応募方法：応募を希望する者は、所定の申請書および研究業績1件を、期限までに事務局に送付する。
期限：令和7年1月10日(金)必着
問合せ先：三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部
公益信託課
TEL：0120-622372(フリーダイヤル)
FAX：03-5328-0586
(受付時間 平日9:00～17:00 土・日・祝日等を除く)
E-mail：koueki_post@tr.mufg.jp
(メール件名には基金名を必ず記入要)

【JST】2025年度先端国際共同研究推進事業(ASPIRE)日蘭共同研究提案募集

募集テーマ：Unconventional information processing technologies-research collaborations between Japan and the Netherlands
(革新的な情報処理技術のための日蘭共同研究)
詳細：https://www.jst.go.jp/aspire/program/announce/announce_aspire2025_nl.html
公募開始：2025年春頃(予定)
問合せ先：国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST) 国際部 先端国際共同研究推進室 日蘭公募担当
TEL：03-6261-1994 E-mail：aspire-nl@jst.go.jp